

## IV 教育の成果及び改善システム



## IV 教育の成果及び改善システム

## 1. 教育の成果

## 1.1 養成する人材像とその達成状況の把握・評価方法

本校の準学士課程において養成する人材像は、「健康な心身と豊かな人間性」を備え、「一般教養及び最も得意とする専門分野の知識・能力」を有し、「柔軟で実践的な技術力」をもった技術者である。卒業時におけるこれらの達成状況の把握は、学業成績の評価等に関する規程、及び施行細則に基づき、以下の手順で実施している。(1) 各科目の学習目標や成績評価基準はシラバスに明記され、成績はそれに基づいて評価されるが、学年末には評価の根拠として評価内訳表(資料4-1-1)の提出が義務付けられている。(2) 卒業研究の評価基準は学科毎に定めているが、基本的には論文(作品)、発表、発表会レジュメ等を複数ないし学科全教員で審査・評価している(資料4-1-2)。(3) 教務委員会で成績評価基準に基づいて、各学科で定める卒業に必要な単位の修得状況を把握する。(4) 課程修了及び卒業認定は、教員会の審議を経て校長が決定する。

資料4-1-1

氏名		評価計 (100%) 点	定期試験(%)				評価点 (A×%) 点	平常 試験 (%) 点	演習 課題 報告 (%) 点	学習 状態 (%) 点	出席 状況 (%) 点	実技 (%) 点	その他 (%) 点	備考
前期中間 (100点満点)	前期期末 (100点満点)	後期中間 (100点満点)	後期末 (100点満点)	年間の成績 (100点満点) A										
1 C**01	明石一郎													
2 C**02	魚住二郎													
3 C**03	西岡三郎													

資料4-1-2

## 卒業研究の評価(都市システム工学科の例)

成績は、卒業研究論文の内容(50%)、卒業研究の記録(10%)及び中間発表と最終審査(40%)を総合し、60%以上達成したものを合格とする。但し、卒業研究論文を期限内に提出し、中間発表と卒業研究発表会において発表したものを最終審査の対象とする。

達成目標(1)、(2)については、提出された研究論文の内容から主査及び副査が評価するとともに、都市システム工学科全教員による審査の結果から評価する。

達成目標(3)については、提出された卒業研究の記録から主査が評価する。

達成目標(4)については、中間発表と最終審査の口頭発表の状況から都市システム工学科全教員が評価する。

(出典：平成27年度シラバス)

専攻科課程では、準学士課程において養成する人材像に加えて、「関連する他の専門分野の知識・能力」と「複眼的視野に基づき、自然や社会との共生に配慮した多次的なシステム思考」を兼ね備えた技術者を養成している。修了時におけるこれらの能力の達成状況は、準学士課程と同様に以下の手

順で行っている。(1) 専攻科・JABEE 委員会が各専攻における必要修得科目の単位取得状況を把握・確認する。(2) 特別研究の審査は、中間発表、論文、審査発表、研究年報等を複数ないし全教員で審査・評価する。(3) 教員会の議を経て校長が修了を認定する。

## 1.2 進級率・卒業率・学位取得状況等からみた教育の成果

準学士課程については学年制をとり、進級については学業成績の評価等に関する規程で定めている。また、専攻科課程については専攻科履修規程に定められている。準学士課程学生の進級の状況を表 4-1-1 に示す。

卒業の状況として、準学士課程の卒業率を表 4-1-2 に示す。表 4-1-3 に学位取得状況を示す。平成 23 年度から平成 27 年度で専攻科修了学生は 100%学位を取得している。

資格取得については、準学士課程入学時にホームルーム等を利用して各学科で推薦できる資格についての指導が行われている。平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業に「近畿地区 7 高専連携による防災技能を有した技術者教育の構築」が採択され、平成 25 年度から防災リテラシー科目を実施している。その結果、防災士の資格を有した学生が年々増加しており、3 年間で 200 名を超え、合格率も 100% である。(表 4-1-4)

また本校の教育目的である「豊かな国際性と指導力」を伸ばすため、平成 14 年から年に 2 度 TOEIC IP 試験を実施して受験を推奨するとともに、TOEIC スコアに応じて単位を与えている。平成 23 年 5 月から平成 27 年 5 月までの TOEIC IP 試験の平均点の推移を表 4-1-5 に示す。TOEIC IP 試験の得点が急激に上昇してきていることがわかる。

卒業研究では卒業研究発表、卒業論文(卒業設計)及び中間発表等を課し、専攻科特別研究では発表会、特別研究論文及び学外への出版物として「研究年報」の執筆を義務化している。平成 25 年度の「研究年報」による専攻科特別研究の研究テーマ一覧表を資料 4-1-3 に示す。平成 23 年度に 32 編、平成 24 年度に 30 編、平成 25 年度に 25 編と着実に成果を重ねている。そして、優れた研究には学会発表等を積極的に奨励している。表 4-1-6 に専攻科学生の学会発表等の状況を示す。平成 23 年度に 56 件、平成 24 年度に 48 件、平成 25 年度に 52 件、平成 26 年度に 77 件、平成 27 年度に 83 件の発表等の実績がある。

研究を含め学生が身に付ける学力や資質・能力について判断できる資料として、平成 23 年度から 27 年度の学生の表彰状況を表 4-1-7 に示す(体育大会等の表彰は除く)。日頃の学習や卒業研究、専攻科特別研究等において、学会等に発表された学習・研究成果の中で、平成 23 年度で 14 名、平成 24 年度で 13 名、平成 25 年度で 43 名、平成 26 年度で 34 名、平成 27 年度で 29 名の学生が外部機関によって高く評価され、表彰を受けている。特に、近年では学会だけでなく、様々なコンテスト等での受賞が目立っている。

表4-1-1 留年・退学者一覧（平成23～27年度）

留年者数（平成23年度～平成27年度）

	H23					H24					H25				
	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計
1年		1			1										
2年		6	1		7		2	1	4	7		2	2	4	8
3年			2	1	3		3		1	4		2		1	3
4年	3	2	1	1	7	1	2			3	3		3		6
5年						2	3			5	2	2		1	5
計	3	9	4	2	18	3	10	1	5	19	5	6	5	6	22

	H26					H27				
	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計
1年			1		1					
2年								1		1
3年				1	1		2		1	3
4年	1	3	1		5	2		1	2	5
5年	2	1			3		2			2
計	3	4	2	1	10	2	4	2	3	11

退学者数（平成23年度～平成27年度）

	H23					H24					H25				
	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計
1年	1			1	2		1			1					
2年		2			2		3	3		6		2	1	2	5
3年								1		1		1		1	2
4年				1	1		1		1	2					
5年	1	1			2										
計	2	3		2	7		5	4	1	10		3	1	3	7

	H26					H27				
	機械	電気	都市	建築	計	機械	電気	都市	建築	計
1年		1			1			1		1
2年		1	1	2	4		1			1
3年		1			1					
4年	1		2		3	1	2	1	1	5
5年	1	1			2					
計	2	4	3	2	11	1	3	2	1	7

5年間の学科別留年・退学者数

	機械	電気	都市	建築	合計	年平均
留年	16	33	14	17	80	16.0
退学	5	18	10	9	42	8.4
計	21	51	24	26	122	24.4
年平均	4.2	10.2	4.8	5.2		

5年間の学年別留年・退学者数

	1年	2年	3年	4年	5年
留年	2	23	14	26	15
退学	5	18	4	11	4
計	7	41	18	37	19
年平均	1.4	8.2	3.6	7.4	3.8
級平均	0.3	1.6	0.7	1.5	0.8

表4-1-2 準学士課程における卒業率

## 平成23年度

学科	入学時 人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	41	39	95.1%	41	100.0%
電気情報工学科	41	39	95.1%	39	95.1%
都市システム工学科	43	40	93.0%	40	93.0%
建築学科	41	38	92.7%	38	92.7%

## 平成24年度

学科	入学時 人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	41	36	87.8%	39	95.1%
電気情報工学科	41	36	87.8%	38	92.7%
都市システム工学科	41	35	85.4%	40	97.6%
建築学科	41	38	92.7%	38	92.7%

## 平成25年度

学科	入学時 人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	41	40	97.6%	40	97.6%
電気情報工学科	41	38	92.7%	41	100.0%
都市システム工学科	42	39	92.9%	39	92.9%
建築学科	41	38	92.7%	40	97.6%

(都市システム工学科から機械工学科へ転科2名、電気情報工学科へ転科1名を含む。いずれも5年間で卒業。)

## 平成26年度

学科	入学時 人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	42	38	90.5%	40	95.2%
電気情報工学科	42	30	71.4%	32	76.2%
都市システム工学科	43	40	93.0%	43	100.0%
建築学科	42	40	95.2%	40	95.2%

## 平成27年度

学科	入学時 人数	卒業人数 (5年間)	卒業率 (5年間)	卒業人数 (留年生も含む)	卒業率 (留年生も含む)
機械工学科	42	42	100.0%	42	100.0%
電気情報工学科	43	37	86.0%	37	86.0%
都市システム工学科	43	37	86.0%	37	86.0%
建築学科	43	39	90.7%	39	90.7%

表 4-1-3 専攻科課程修了学生の学位取得状況

修了年度	修了者数			学位取得者数		
	ME専攻	AC専攻	合計	ME専攻	AC専攻	合計
平成23年度	16	16	32	16	16	32
平成24年度	14	14	28	14	14	28
平成25年度	16	10	26	16	10	26
平成26年度	12	13	25	12	13	25
平成27年度	18	17	35	18	17	35
合計	76	70	146	76	70	146
学士取得率	100.0%			100.0%		

ME 専攻：機械・電子システム工学専攻

AC 専攻：建築・都市システム工学専攻

表 4-1-4 防災士 資格取得者数

	科目受講者	受験者	合格者	合格率
平成25年度	170	35	35	100.0%
平成26年度	168	60	60	100.0%
平成27年度	171	108	108	100.0%
合計	509	203	203	100.0%

表 4-1-5 TOEIC IP 試験結果 (平均点)

	5月実施		11月実施	
	受験者数 (人)	平均点 (点)	受験者数 (人)	平均点 (点)
平成23年度	327	416	287	422
平成24年度	243	416	244	409
平成25年度	209	402	154	416
平成26年度	310	428	133	450
平成27年度	274	459	132	457

資料4-1-3

**明石工業高等専門学校専攻科研究年報**  
**第17号（平成26年3月）**  
**目 次**

脂質を含んだ水溶液の凍結実験 ..... 安達 充洋 (1)  
 Freezing experiment of an aqueous solution containing a lipid Mitsuhiko ADACHI

高圧水素供給中の密閉容器内壁面熱伝達特性の解明 ..... 川崎 亮太 (7)  
 Investigation of Heat Transfer Characteristics on the Inner Wall of an Enclosed Vessel during Filling Ryota KAWASAKI

高炭素クロム軸受鋼（SUJ2）の破壊じん性試験 ..... 徳永 翔吾 (13)  
 Fracture Toughness Test of High Carbon Chromium Bearing Steel (SUJ2) Shogo TOKUNAGA

超高サイクル域におけるバルクアモルファス合金の疲労特性 ..... 西岡 秀晃 (19)  
 Fatigue Properties of Bulk Amorphous Alloy in Very High Cycle Regime Hideaki NISHIOKA

（出典：平成25年度専攻科研究年報）

表4-1-6 専攻科学生の学会発表（出典：平成27年度専攻科研究年報）

専攻科生の学会発表等の状況（平成27年度）

参加・投稿者等	論文名等	「専」は、専攻科生 「指」は、指導教員を示す 学会・論文集等名称
橋亮 専 濱田隼行 加藤隆弘 指 森合主税 関本昌利	高圧クーラント供給下の旋削における工具寿命	日本トライボロジー学会 トライボロジー会議2015春姫路(2015.5.27)
北秀貴 専 加藤隆弘 指	超音波振動を利用した固体潤滑剤の被膜化	日本トライボロジー学会 トライボロジー会議2015春姫路(2015.5.27)
河山梓伸 専 豊島晋 大向雅人 指	フォトリソグラフィによる透明電極加工条件の検討	第17回IEEE広島支部学生シンポジウム(2015.11.21-22)
前田慎一 専 佐村敏治 指 西村治彦	フリック入力生体認証におけるプロファイル連結手法による1対1認証評価	電子情報通信学会 ISS学生ポスターセッション, ISS-SP-178 (2016.3.16)
芝田将 専 佐村敏治 指	ウェアラブルグラスによる個人認識可能性	電子情報通信学会 ISS学生ポスターセッション, ISS-SP-177 (2016.3.16)
成枝秀介 指 長 大樹 専	[招待講演]複数受信アンテナを用いた周波数選別に基づく低演算量なスペクトルセンシング	電子情報通信学会技術報告, vol.115, no.62, SR2015-5, pp.25-30, (2015.05)
長 大樹 専 近藤淳史 成枝秀介 指	時間平均による重み計算を用いた検定統計量を共用するCAFダイバーシティ方式によるスペクトルセンシングの検討	電子情報通信学会技術報告, vol.115, no.62, SR2015-8, pp.45-52, (2015.05)
長 大樹 専 成枝秀介 指	A Weighted Diversity Combining Technique for Cyclostationarity Detection Based Spectrum Sensing in Cognitive Radio Networks	The Third IEEE Int'l Workshop on Emerging COgnitive Radio Applications and aLgorithms (IEEE CORAL 2015), pp.1-6, Jun. 2015. [BEST PAPER AWARD受賞]
長 大樹 専 成枝秀介 指	Feature Detection Based Computationally Efficient Spectrum Sensing by Test Statistics Sharing among Multiple Receive Antennas	IEEE Int'l Symp. on Personal, Indoor and Mobile Radio Communications (IEEE PIMRC2015), pp.462-466, Sep. 2015.
長 大樹 専 成枝秀介 指 梅林健太	検定統計量共用CAF合成ダイバーシティ方式によるスペクトルセンシング法の重み計算に関する検討	電子情報通信学会技術報告, vol.115, no.473, SR2015-103, pp.113-120, (2016.03)
長 大樹 専 成枝秀介 指	複数受信アンテナ間で検定統計量を共用する周波数選別に基づくスペクトルセンシング法にAGCが与える影響	電子情報通信学会総合大会講演論文集, 九州大学, 通信(1), B-17-27, p630, (2016.03)
萩原達特 専 梶村好宏 指	Thrust Measurement of Magneto Plasma Sail with a Magnetic Nozzle by using Thermal Plasma Injection	30th International Symposium on Space Technology and Science, Hyogo-Kobe, Japan, July 4-10, 2015, IEPC-2015-461p / ISTS-2015-b-461p.
山下龍 専 梶村好宏 指	Thrust Evaluation of Magneto Plasma Sail Injecting Thermal Plasma by using 3D Hybrid PIC Code	30th International Symposium on Space Technology and Science, Hyogo-Kobe, Japan, July 4-10, 2015, IEPC-2015-462p / ISTS-2015-b-462p.
萩原達特 専 梶村好宏 指	熱プラズマを用いた磁気ノズル型プラズマセイルの推力評価	平成27年度ネットワーク衛星デザイン「工房」のための連携教育フォーラム(2015.12)
久米俊治 専 山崎康太郎 専 江口忠臣 指	Soil Compaction Characteristics of Construction Machinery on a Site	10th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics(2015.11)
K.Michioku K.Kanda 指 S.Kometani Y.Irie 専 C.Sakamoto	Manning's coefficient of alternatively arranged sandbars with tree vegetation	Proceedings of 2015 IAHR World Congress, Den Haag, Netherlands, CD-ROM(2015.6)
T.Ochi 専 K.Kanda 指 H.Miwa F.Nakamura	Research on dynamic state of river-mouth bar under flood condition in the Yura River	Proceedings of 2015 IAHR World Congress, Den Haag, Netherlands, CD-ROM(2015.6)



表4-1-7 学生の表彰状況（体育大会等の表彰は除く）

受賞名	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
土木学会年次学術講演会 優秀発表賞	1				1
土木学会関西支部年次学術講演会 優秀発表賞	1	2	1	1	2
日本材料学会地盤改良シンポジウム 優秀発表賞		1		1	
日本高専学会年会講演会 ポスターセッション 最優秀賞・優秀賞	1	1	2	2	
全国高専デザインコンテスト 環境デザイン部門・空間デザイン部門・ものづくり部門・ 創造デザイン部門 最優秀賞・優秀賞	8		7		1
京都大学ベンチャー・ビジネスラボラトリー 入賞					
神戸高専産学官技術フォーラム 優秀プレゼン賞・優秀ポスター賞	2	2	2		
ひょうごユニバーサル社会づくり賞	1				
統計グラフ全国コンクール第5部 入選一席		4			
兵庫県統計コンクール パソコン統計グラフの部 入選		1			
アーバンデザイン甲子園 入選		1			
日本情報オリンピック本選 優秀賞		1			1
建設コンサルタンツ協会近畿支部研究発表会 奨励賞				1	
全国高専女子フォーラム 企業関係者審査部門 優秀ポスター発表賞				3	
関西学生会卒業研究発表講演会				3	
高校生建築設計競技 佳作				1	
電気関係学会関西支部連合大会 連合体会奨励賞				1	
かんでん住まいの設計コンテスト 学生部門 佳作				3	
グローバル・エンタプライズ・チャレンジ				5	
Mashup Award 優秀賞・U-23賞 他				6	10
「新・木造の家」設計コンペ 林野庁長官賞・トステム賞				4	
高校生の建築甲子園 準優勝・ベスト8				1	3
オープンデータ ユースケースコンテスト 最優秀賞					1
オープンデータ・アプリコンテスト 優秀賞					1
キッズデザイン賞 奨励賞					1
Linked Open Data チャレンジJAPAN 学生奨励賞					4
マルチメディア、分散、協調とモバイル シンポジウム					3
キッズワークショップアワード 審査員特別賞					6
LODチャレンジJapan					2
学生奨励賞（高専部門）・Yahoo!JAPAN賞					5
オムロンコトチャレンジ 最優秀賞					1
パソコン甲子園 プログラミング部門 第3位					2
KANAZAWAオープンデータアプリコンテスト グランプリ					4
現代ビジネスプランコンペ 最優秀賞					4
国際会議・国際シンポジウム 優秀発表賞・優秀ポスター賞				1	1
その他				2	1
合計	14	13	43	34	29

## 1.3 就職・進学状況からみた教育の成果

卒業（修了）後の進路状況を表4-1-8に示す。準学士課程卒業後の進学率と就職率は、進学率が60～70%、就職率が30～40%である。専攻科課程修了後の進学率と就職率は、進学率、就職率が約半数ずつであったが平成26年度以降は就職率が進学率を上回っている。その他が少なく、進路状況は非常に良好である。

表4-1-8 卒業（修了）後の進路状況

	準学士課程			専攻科課程		
	進学者(人) (進学率(%))	就職者(人) (就職率(%))	その他(人) (%)	進学者(人) (進学率(%))	就職者(人) (就職率(%))	その他(人) (%)
平成23年度	108 (63.9)	59 (34.9)	2 (1.2)	17 (53.1)	15 (46.9)	0 (0.0)
平成24年度	105 (70.0)	42 (28.0)	3 (2.0)	16 (55.2)	13 (44.8)	0 (0.0)
平成25年度	117 (68.4)	50 (29.2)	4 (2.3)	16 (61.5)	9 (34.6)	1 (3.8)
平成26年度	92 (58.6)	61 (38.9)	4 (2.5)	11 (44.0)	14 (56.0)	0 (0.0)
平成27年度	109 (65.3)	52 (31.1)	6 (3.6)	14 (40.0)	20 (57.1)	1 (2.9)

卒業（修了）後の就職者の業種を表4-1-9に示す。業種は多方面に広がっているが、傾向として、機械工学科と電気情報工学科は製造業関連、都市システム工学科と建築学科は建設業関連の比率が多いことが分かる。

大学編入学者の一覧表を表4-1-10に示す。近年は進学希望者も増えたこともあり、編入学先は全国各地に広がっている。就職者及び進学者の進路先は、各工学技術分野を中心に多方面にわたっているが、いずれも本校の教育目的において意図する能力を十分に活用しうる場であり、教育の成果や効果が進路先に十分評価されているものと考えられる。

表4-1-9 卒業・修了生の進路状況

平成23年度

区分	学科	機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科	小計	機械・電子システム工学専攻	建築・都市システム工学専攻	計
	求人数	475	436	250	223	1,384	174	250	424
産別	建設業			8	7	15		2	2
	製造業	10	6	2	3	21	4	1	5
	電気・ガス・水道業	2	3	4	2	11	1		1
	運輸・通信業			6	4	10	2	1	3
	サービス業					0			0
	その他					1			0
	公務					1		4	4
	計	12	9	20	18	59	7	8	15
	進学者	28	32	24	24	108	9	8	17
	その他	0	1	0	1	2	0	0	0

## 平成24年度

区分		学科				計	機械・電子システム工学専攻	建築・都市システム工学専攻	計
		機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科				
求人数		460	417	197	183	1,257	300	108	408
産業別	建設業	1		2	3	6		1	1
	製造業	8	6		1	15	4	2	6
	電気・ガス・水道業	1	1	3	1	6			0
	運輸・通信業	1		3	3	7	1	1	2
	サービス業		1		2	3		3	3
	その他	2			1	3			0
	公務			1	1	2		1	1
計		13	8	9	12	42	5	8	13
進学者		23	28	25	29	105	10	6	16
その他		1	1	1	0	3	0	0	0

## 平成25年度

区分		学科				計	機械・電子システム工学専攻	建築・都市システム工学専攻	計
		機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科				
求人数		480	465	260	284	1,489	465	310	775
産業別	建設業	1		4	9	14		2	2
	製造業	12	6	1		19	2		2
	電気・ガス・水道業	1	1	2	1	5			0
	運輸・通信業		1	3	1	5		1	1
	専門・技術サービス業	1	1		1	3		1	1
	その他	1	1			2			0
	公務			2		2	1	2	3
計		16	10	12	12	50	3	6	9
進学者		31	31	29	26	117	12	4	16
その他		0	1	1	2	4	1	0	1

## 平成26年度

区分		学科				計	機械・電子システム工学専攻	建築・都市システム工学専攻	計
		機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科				
求人数		533	497	260	235	1,525	308	116	424
産業別	建設業			7	10	17		4	4
	製造業	18	4		1	23	5		5
	電気・ガス・水道業	1		1	1	3			0
	運輸・通信業			4	2	6		1	1
	専門・技術サービス業		3			3			0
	その他	1				1			0
	公務	1	1	3	3	8		4	4
計		21	8	15	17	61	5	9	14
進学者		14	28	25	25	92	7	4	11
その他		3	0	0	0	3	0	0	0

平成27年度

区分	学科				計	機械・電子システム工学専攻	建築・都市システム工学専攻	計	
	機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科					
求人数		585	560	370	253	1,768	348	180	528
産 業 別	建設業	1	1	15	4	21		7	7
	製造業	10	6			16	9		9
	電気・ガス・水道業		1	1	2	4	1		1
	運輸・通信業	2	1		1	4			0
	専門・技術サービス業					0			0
	その他				1	1			0
	公務	1		3	2	6		3	3
	計	14	9	19	10	52	10	10	20
進学者		28	30	20	31	109	7	7	14
その他		4	1	1	0	6	1	0	1

表4-1-10 卒業生の大学編入学先

( )内は合格者数

## [国公立大学]

大 学 名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	大 学 名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
北 海 道 大 学	1 (2)	1 (1)	4 (4)	2 (2)	1 (2)	神 戸 大 学	10 (12)	8 (9)	9 (11)	2 (3)	11 (14)
帯 広 畜 産 大 学				1 (1)		奈 良 女 子 大 学	2 (3)	1 (1)	1 (2)	3 (3)	2 (3)
室 蘭 工 業 大 学				1 (1)		和 歌 山 大 学	1 (1)	2 (3)	(3)	1 (1)	4 (7)
東 北 大 学	1 (1)	(1)		1 (1)	1 (1)	岡 山 大 学	4 (8)	2 (7)	2 (6)	1 (4)	2 (4)
筑 波 大 学	5 (5)	3 (3)	1 (3)		1 (2)	広 島 大 学	1 (4)	2 (4)	2 (4)	2 (2)	2 (2)
埼 玉 大 学				1 (1)		山 口 大 学	1 (3)	2 (3)		1 (1)	2 (2)
千 葉 大 学	5 (7)	5 (5)	9 (13)	5 (6)	1 (6)	徳 島 大 学	2 (3)	1 (1)	2 (2)	(1)	
東 京 大 学	5 (5)	2 (2)	4 (4)	2 (2)	4 (4)	香 川 大 学	(2)	(1)		2 (3)	
東 京 工 業 大 学	(1)					九 州 大 学	1 (3)	5 (6)	8 (9)	2 (3)	1 (2)
東 京 海 洋 大 学		1 (1)				九 州 工 業 大 学	1 (1)				
お 茶 の 水 女 子 大 学		1 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	大 分 大 学		(1)			
電 気 通 信 大 学	(1)			1 (1)		長 崎 大 学		1 (1)			
横 浜 国 立 大 学	1 (2)			(1)		熊 本 大 学			(1)	(2)	1 (1)
新 潟 大 学				(1)		宮 崎 大 学				(1)	
長 岡 技 術 科 学 大 学	(4)	3 (4)	2 (8)	3 (4)	6 (6)	鹿 児 島 大 学	(1)	1 (2)			1 (1)
山 梨 大 学				(1)		琉 球 大 学					1 (1)
信 州 大 学		3 (3)			1 (1)	公立はこだて未来大学				1 (1)	
富 山 大 学	(1)					札 幌 市 立 大 学				1 (1)	
福 井 大 学	(1)	(1)		2 (3)	3 (6)	群 馬 女 子 大 学			1 (1)		
岐 阜 大 学	1 (1)		1 (1)			首 都 大 学 東 京	1 (1)	1 (2)	(3)	2 (3)	2 (4)
静 岡 大 学		1 (2)				長 岡 造 形 大 学					1 (1)
名 古 屋 大 学	1 (1)	2 (2)			(2)	滋 賀 県 立 大 学	1 (1)		1 (1)	2 (2)	
名 古 屋 工 業 大 学			1 (1)			京 都 府 立 大 学		1 (1)			2 (2)
豊 橋 技 術 科 学 大 学	16 (28)	9 (19)	11 (24)	5 (12)	4 (6)	大 阪 市 立 大 学	1 (1)				
三 重 大 学	1 (1)	1 (3)	3 (4)	1 (2)	4 (4)	兵 庫 県 立 大 学	1 (2)				
京 都 大 学	2 (2)	1 (1)	1 (2)	2 (2)	3 (3)	岡 山 県 立 大 学			1 (1)		
京 都 工 芸 繊 維 大 学	1 (2)	3 (3)	3 (5)	2 (2)	3 (3)	北 九 州 市 立 大 学		(1)			
大 阪 大 学	14 (17)	13 (13)	10 (10)	9 (11)	9 (10)	高 知 工 科 大 学			1 (1)		
						合 計	81 (128)	76 (108)	79 (125)	60 (87)	74 (101)

## [私立大学]

大 学 名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	大 学 名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
立 命 館 大 学	1 (1)			1 (1)	1 (1)	神 戸 芸 術 工 科 大 学	1 (1)				
大 阪 工 業 大 学					1 (1)	合 計	2 (2)	0 0	0 0	1 (1)	2 (2)

#### 1.4 学生による学習達成度評価及び授業アンケート結果からみた教育の成果

学生による学習目標の設定及び達成度評価としては、平成23年度分は「学習目標達成度自己評価シート」を用いて、定期試験ごとに達成度を評価している。平成24年度より明石高専 eラーニングポータルである moodle を用いて「学習・教育目標の達成度自己評価」に関して後期に調査を行っている。これにより、学生は各学習目標に対する達成度を自ら評価し、その結果を次年度以降の目標設定及び学習方法の改善に反映させている。平成23～27年度までの準学士課程高学年及び専攻科課程における評価結果を集計したものを表4-1-11に示す。

表4-1-11 学生による学習・教育目標の達成度評価結果（抜粋）

平成23年度

学習目標	準学士課程				専攻科課程			
	第4学年		第5学年		第1学年		第2学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	1.59	1.44	1.50	1.49	1.87	1.97	1.60	1.82
(B)国際性と指導力	1.29	1.13	1.21	1.28	1.60	1.82	1.25	1.65
(C)技術者倫理	1.34	1.26	1.25	1.37	1.76	1.89	1.69	1.92
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	1.43	1.23	1.41	1.46	1.84	1.84	1.66	1.76
(E)コミュニケーション能力	1.27	1.35	1.16	1.38	1.67	1.73	1.44	1.77
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	1.46	1.25	1.29	1.42	1.80	1.93	1.53	1.85
(G)実践的な問題解決能力	1.43	1.27	1.43	1.46	1.82	1.80	1.63	1.96
(H)多角的なシステム思考	1.35	1.28	1.22	1.36	1.82	1.93	1.57	1.81

評価点：十分達成できた(2点)、普通(1点)、達成できなかった(0点)

平成24年度

学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.87	3.76	4.16	4.23
(B)国際性と指導力	3.57	3.96	4.16	4.06
(C)技術者倫理	3.76	3.96	4.18	4.22
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.65	3.83	3.97	4.17
(E)コミュニケーション能力	3.76	3.95	4.14	4.18
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.77	3.87	4.30	4.23
(G)実践的な問題解決能力	3.77	3.92	4.34	4.35
(H)多角的なシステム思考	3.72	3.91	4.37	4.28

評価：十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)

## 平成25年度

学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.94	3.77	4.19	4.31
(B)国際性と指導力	3.51	4.02	3.93	4.20
(C)技術者倫理	3.79	4.02	4.19	4.37
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.71	3.94	4.12	4.36
(E)コミュニケーション能力	3.78	3.97	4.04	4.37
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.65	3.86	4.23	4.41
(G)実践的な問題解決能力	3.66	3.94	4.12	4.47
(H)多次元的なシステム思考	3.54	3.93	4.12	4.36

評価：十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)

## 平成26年度

学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.74	3.46	4.52	4.24
(B)国際性と指導力	3.46	3.69	4.26	3.99
(C)技術者倫理	3.63	3.69	4.46	4.17
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.59	3.80	3.97	4.27
(E)コミュニケーション能力	3.57	3.67	4.47	4.10
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.62	3.50	4.41	4.14
(G)実践的な問題解決能力	3.65	3.57	4.46	4.21
(H)多次元的なシステム思考	3.56	3.62	4.36	3.80

評価：十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)

## 平成27年度

学習目標	準学士課程		専攻科課程	
	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	3.61	3.50	4.04	4.52
(B)国際性と指導力	3.40	3.78	4.00	3.35
(C)技術者倫理	3.65	3.78	4.42	4.49
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	3.56	3.59	4.00	3.93
(E)コミュニケーション能力	3.63	3.60	4.21	3.83
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	3.46	3.63	4.29	3.79
(G)実践的な問題解決能力	3.63	3.70	3.96	4.12
(H)多次元的なシステム思考	3.37	3.62	4.25	4.16

評価：十分達成できた(5)、ある程度達成できた(4)、普通(3)、あまり達成できなかった(2)、達成できなかった(1)

学生による授業アンケートは、準学士課程では平成8年度から、専攻科課程では平成12年度から実施しており、その中で学習の達成度に関する項目は表4-1-12のようである。平成23～27年度の結果について、学年ごとの評価点の平均値をまとめたものを表4-1-13に示す。

表4-1-12 学習の達成度に関する授業アンケート項目（抜粋）

準学士課程	8. 自分の目標を達成できましたか。	5 ————— 4 ————— 3 ————— 2 ————— 1 十分達成できた 普通 殆ど達成できなかった
専攻科課程	2. あなたは授業のねらい〔学習目標〕をどの程度達成していますか。	5 ————— 4 ————— 3 ————— 2 ————— 1 十分達成している 達成している ほとんど達成していない

表4-1-13 学習の達成度に関する授業アンケート結果（抜粋）

	学年	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
準学士課程	1	3.76		3.71		3.71
	2	3.57		3.62		3.64
	3	3.68	3.22	3.76	3.51	3.81
	4	3.60	3.88	3.76	3.62	3.71
	5	4.07	3.94	4.06	3.78	3.80
専攻科課程	1	4.06	4.12	3.91	4.16	4.05
	2	3.76	4.14	4.37	3.99	4.31

学生による学習目標の達成度評価では、表4-1-11の学習・教育目標「(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身」を除く(B)～(H)において、学年が高くなるにつれて評価点が上昇する傾向にある。

学生が授業科目ごとに設定した学習目標に対する達成度については、表4-1-13の授業アンケート集計結果に見られるように、準学士課程及び専攻科課程ともに、5段階評価で3.2以上の評価（達成度）を示している。

### 1.5 卒業生及び進路先企業等のアンケート結果からみた教育の成果

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組は、アンケート調査を中心に実施している。ここでは、平成26年2月に実施した、専攻科修了生、専攻科修了生の進路先企業及び大学院を対象とした、明石高専の教育目的、学習・教育目標に関するアンケート調査の結果を示す。修了生、企業、大学院からそれぞれ33、13、17の回答を得た。下の4つの表の数値は回答数を全体に対するパーセントで表したものである。

表4-1-14は教育目的の反映度をまとめたもので、修了生には明石高専の教育目的が授業やカリキュラムにどれほど反映されているかを尋ねた。企業と大学院には明石高専の教育目的が修了生に進路先でどれほど反映されているかを尋ねた。

表4-1-15は学習・教育目標の重要度をまとめたものである。表4-1-16は修了生の進路先による専攻科修了生の学習・教育目標の達成度評価を、表4-1-17は専攻科修了生の総合評価をまと



めたものである。

表 4-1-14 教育目的の反映度合 (%)

対象者	教育目的	明石高専の教育目的の反映度合				
		反映されて いる	どちらかといえ ば反映されてい る	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反映されてい ない	反映されて いない
修了生	健康な心身と豊かな人間性	21	42	33	3	0
	柔軟な問題解決能力	30	45	18	3	3
	実践的な技術力	45	36	18	0	0
	豊かな国際性と指導力	6	15	58	15	6
企業	健康な心身と豊かな人間性	25	58	17	0	0
	柔軟な問題解決能力	8	67	25	0	0
	実践的な技術力	25	33	42	0	0
	豊かな国際性と指導力	8	17	58	17	0
大学院	健康な心身と豊かな人間性	35	53	6	6	0
	柔軟な問題解決能力	24	41	29	6	0
	実践的な技術力	63	25	6	0	6
	豊かな国際性と指導力	6	24	53	6	12

表 4-1-15 学習・教育目標の重要度 (%)

対象者	学習・教育目標	明石高専の学習・教育目標の重要度				
		重要である	どちらかといえ ば重要である	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない
修了生	豊かな人間性と健康な心身	47	41	13	0	0
	国際性と指導力	36	36	15	12	0
	技術者倫理	52	39	9	0	0
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	72	25	3	0	0
	コミュニケーション能力	64	18	18	0	0
	柔軟かつ創造的な設計能力	39	45	12	3	0
	実践的な問題解決能力	61	33	3	3	0
	多次元的なシステム思考	36	39	21	3	0
企業	豊かな人間性と健康な心身	77	23	0	0	0
	国際性と指導力	8	46	46	0	0
	技術者倫理	15	54	31	0	0
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	75	25	0	0	0
	コミュニケーション能力	85	15	0	0	0
	柔軟かつ創造的な設計能力	46	46	8	0	0
	実践的な問題解決能力	54	23	23	0	0

IV 教育の成果及び改善システム

	多次元的なシステム思考	15	38	46	0	0
大学院	豊かな人間性と健康な心身	65	35	0	0	0
	国際性と指導力	29	53	12	6	0
	技術者倫理	71	29	0	0	0
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	82	18	0	0	0
	コミュニケーション能力	59	41	0	0	0
	柔軟かつ創造的な設計能力	53	41	6	0	0
	実践的な問題解決能力	59	41	0	0	0
	多次元的なシステム思考	47	35	18	0	0

表 4-1-16 専攻科修了生の学習・教育目標の達成度 (%)

対象者	学習・教育目標	専攻科修了生の学習・教育目標の達成度				
		十分に達成された	達成された	概ね達成された	達成は不十分である	ほとんど達成されていない
企業	豊かな人間性と健康な心身	18	45	27	0	9
	国際性と指導力	0	9	55	27	9
	技術者倫理	0	45	45	0	9
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	18	45	36	0	0
	コミュニケーション能力	0	27	64	0	9
	柔軟かつ創造的な設計能力	0	45	45	9	0
	実践的な問題解決能力	9	45	36	0	9
	多次元的なシステム思考	9	18	55	18	0
大学院	豊かな人間性と健康な心身	29	47	18	6	0
	国際性と指導力	6	24	53	12	6
	技術者倫理	12	71	18	0	0
	基礎学力と自主的・継続的学習能力	24	59	12	0	6
	コミュニケーション能力	18	47	29	6	0
	柔軟かつ創造的な設計能力	24	41	29	0	6
	実践的な問題解決能力	47	29	18	6	0
	多次元的なシステム思考	0	41	53	0	6

表 4-1-17 専攻科修了生の進路先の総合評価 (%)

対象者	大変よい	よい	普通	もう少し努力してほしい	もっと高専で学習・教育を必要とする
企業	31	46	23	0	0
大学院	33	47	13	0	7

表4-1-14より、教育目的の「健康な心身と豊かな人間性」、「柔軟な問題解決能力」及び「実践的な技術力」に関しては、修了生、企業、大学院とも58%~88%が「反映されている」または「どちらかといえば反映されている」としている。一方、教育目的の「豊かな国際性と指導力」に関しては、「反映されている」または「どちらかといえば反映されている」とした数が修了生、企業、大学院でそれぞれ21%、25%、30%であり、改善が望まれる。

表4-1-15より、8つの学習・教育目標に対し、「重要である」または「どちらかといえば重要である」とした数が、修了生では72%~97%、企業では53%~100%、大学院では82%~100%である。企業において小さい数値であったのは、「国際性と指導力」の54%と「多次元的なシステム思考」の53%である。「基礎学力と自主的・継続的学習能力」と「コミュニケーション能力」については、100%の企業と大学が「重要である」または「どちらかといえば重要である」と回答しており、進路先でこの2項目が重要視されていることが分かる。

表4-1-16より、8つの学習・教育目標に対し、「十分に達成された」、「達成された」または「概ね達成された」とした数が、企業では64%~100%、大学院では82%~100%である。「国際性と指導力」に対し、企業の64%が「十分に達成された」、「達成された」または「概ね達成された」と回答したことを除くと、いずれの学習・教育目標も、企業と大学院で82%以上が「概ね達成された」あるいはそれ以上と回答している。

表4-1-17より、専攻科修了生の進路先の総合評価について、「大変よい」または「よい」と回答した数が、企業では77%、大学院では80%である。

上の4つの表を総括すると、修了生、進路先企業及び進路先大学院のアンケート結果から、本校の教育の成果は80%程度達成されているといえる。ただし、教育目的の「豊かな国際性と指導力」をカリキュラムにより強く反映させることが必要である。それにより、表4-1-16において進路先企業から修了生の「国際性と指導力」の達成度がより高く評価され、表4-1-17の総合評価も上がることを期待される。

## 2. 教育の状況についての点検・評価・改善システム

### 2.1 教育の状況の点検・評価の実施体制

教育活動に関するデータや資料の収集・蓄積は、FD委員会を中心とし、一部を校長およびアクティブラーニングセンター運営委員会が担当している（図4-2-1）。FD委員会では、教員から授業点検書及び教材開発の申告等を収集し、学生からは授業アンケート、目標達成度自己評価等を収集している（表4-2-1）。

校長は、教職員から「明石高专教職員意見箱」、学生からは「意見箱」により意見・要望を受けている。さらに平成18年度から有識者懇談会から報告書（提言）（資料4-2-1）を受けている。収集された資料・データは、FD委員会のみならず将来計画・自己点検等委員会、教育研究活動評価等委員会、教務委員会、専攻科・JABEE委員会等で審議・評価し、教育の改善に反映させている。

図4-2-1 収集・蓄積等の実施体制

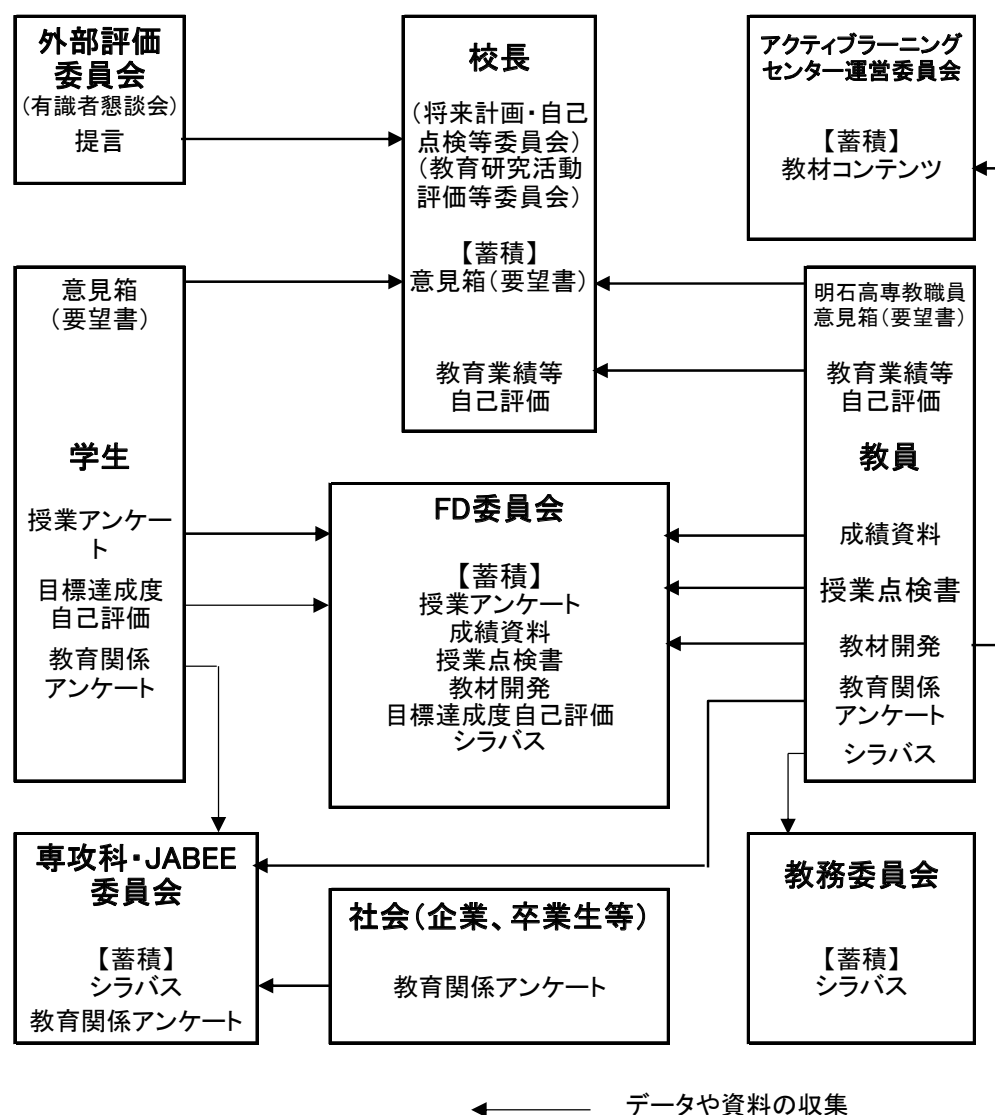


表4-2-1 教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積状況（平成23年度～平成27年度）

年度 データ、資料名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	備考
授業アンケート (1～3年)	◎	◎	◎	—	◎	オンライン
授業アンケート (4～5年)	◎	◎	◎	◎	◎	オンライン
授業アンケート (専攻科)	◎	◎	◎	◎	◎	オンライン
成績資料 (4,5年、専攻科1,2年)	◎	◎	◎	◎	◎	JABEE資料を 含む
成績資料 (1～3年)	◎	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (4,5年、専攻科1,2 年)	◎	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (1～3年)	◎	◎	◎	◎	◎	
教育業績自己申告 書	◎	◎	◎	◎	◎	
学生からの「学校に 対する要望書」	○	○	○	○	○	
学生の「学習教育目 標達成度自己評価」	◎	◎	◎	◎	◎	
教材開発の状況	○	○	○	○	○	

(◎：全部、○：一部)

## 資料4-2-1

## 有識者懇談会報告書（抜粋）

(人材像策定について)

高専教育に対して、6・3・3・4のJABEEが完全にフィットするわけではないということも認識していただきながら、ジャパン高専アコードというような、これが日本の高専教育の標準であるというものをやはりつくって、それを全世界に認めてもらう。

(出典 明石工業高等専門学校 有識者懇談会報告書 平成25年1月)

(グローバル人材育成について)

リーダー層をかなり若い人が目指さなくなってきているので、そういう人材をぜひ、明石高専で特化して教育していただきたい。

まずは、教える側がそういうグローバルな感覚をもっていないと、学生にグローバル人材教育をするということが難しいので、教える側のレベルアップということについてお考えいただければと思います。

(出典 明石工業高等専門学校 有識者懇談会報告書 平成26年11月)

## 2.2 学生及び学外関係者の意見の自己点検・評価への反映

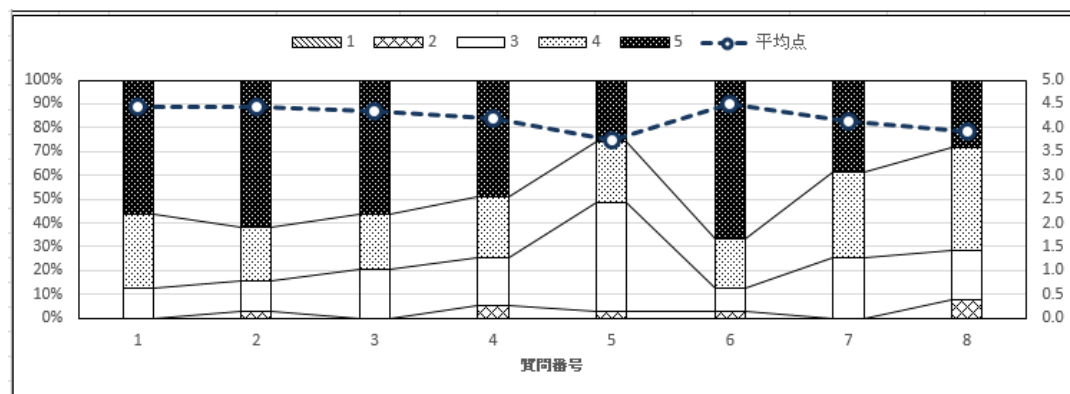
学生の意見を聴取する制度として、授業アンケート・学級担任・学生相談室・意見箱等がある。授業アンケートは毎年7～8月と2月に実施し、集計結果（学生の評価・問題点の指摘、担当教員の所見・授業改善案）を学内LANに公開している（資料4-2-2）。学級担任（又は副担任）は「担任マニュアル」「教員マニュアル」（資料4-2-3）に従い、また科目担当者はオフィスアワーを活用して、学生の意見を聴取する。学生相談室も設置し、利用されている。意見箱は学生玄関に設置し、回答が速やかに学生玄関に掲示されると共に学内LANでも公開される（資料4-2-4）。最近では学生相談室が充実しており、平成26年度の投書は3件、平成27年度は0件と減少傾向にある。投書の内容は学業・学校生活に関するものであり、校長が教員と面談を行うことで改善を図った。

資料4-2-2

学生による授業アンケート集計表（1授業分。各項目名中心に一部抜粋のみ）

○科目名（解析学）・クラス（4M）

質問	←良いできた		普通	悪いできない→		回答数	平均
	5	4		2	1		
1 総合評価	22	12	5	0	0	39	4.44
2 説明の仕方・黒板の使い方	24	9	5	1	0	39	4.44
3 教科書や教材の選定	22	9	8	0	0	39	4.36
4 学生の理解度の確認	19	10	8	2	0	39	4.18
5 授業に興味を持てるような工夫	10	10	18	1	0	39	3.74
6 シラバスどおりの授業	26	8	4	1	0	39	4.51
7 授業の目標の理解	15	14	10	0	0	39	4.13
8 授業の目標の達成	11	17	8	3	0	39	3.92



○質問項目 問1（総合評価） 問2（説明の仕方） 問3（教材の選定） 問4（理解度の確認）  
問5（興味を持たせる工夫） 問6（計画達成度） 問7（授業目標の理解） 問8（目標達成度）  
以上の5段階評価（各設問の平均 3.74～4.51）

○自由記述（授業の良かった点と改善点。毎回出される課題によって、復習がしやすかった。証明が丁寧。授業の残り時間に質問を受けてくれることに感謝しています。授業の内容に対して演習課題が難しく全く解けないことがあった。など）

○教員の講評（全体として、授業（付随する自己学習を含む）への取り組みや理解度の良いクラスであった。問題の解き方を教えほしいという要望はいつも少数あるが、例えば定理を使って解く問題の場合、定理の内容と使い方（適用の手順）を別々に覚えようとするのではなく、導出過程を理解してから取り組めば、配布した演習課題の中に難しいものはそれほど多くないと思う。）

## 資料4-2-3

## 「担任マニュアル」 (抜粋)

## 1. 学級運営

## 学級運営の心得

学生との人間的な触れ合いを大切にし、できる限り接触の時間を多くとるよう心掛ける。その際、問題によっては毅然たる態度も必要であるが、偏見にとらわれず公平な態度で、受容の心をもって接する。

個々の学生の特質をよく理解し、発達過程を見守りながら、きめ細かい適切な指導を進める。ことに学業や生活面で問題を抱えている学生には積極的に働きかけ、学習意欲の育成・向上に努める。

『学生生活のてびき』等の配布物をよく読むよう指導し、諸手続の仕方、学校の規則などを理解させる。同時に、『シラバス』の活用を奨励し、それを通して自学自習の習慣を確立するよう、積極的な学習態度の育成に努める。

担当クラスを有機的な集団、すなわち学生相互の健全な連帯感に支えられた集団へと育成する。そのためには、学級のリーダーやムードメーカーとなりうる学生をいち早く見抜き、その活動を積極的に方向付け、支援していくことも有効な手段の一つである。(以下、略。中心的な表題のみ)

## 1-1. 基本的業務

年度当初の業務 等

## 3. 学習指導

## 3-1. 学生の成績履歴

前担任との引継、学生の成績把握

## 3-2. 日常の学習指導

HRでの指導、個別指導、教科担当教員との連携 等

## 3-3. 定期試験時の指導

定期試験前の指導、定期試験後の指導 等

## 4. 生活指導

## 4-6. 寮生の指導

寮生指導の心得、寮務主事・寮務係との連携 等

## 4-10. 学生相談室・保健室等との連携

学生相談室との連携、保健室との連携 等

## 「教員マニュアル」(項目のみ抜粋)

## 1. 高等教育機関

## 2. 明石高専の特色と教育目的

## 3. 「共生システム工学」教育プログラム

## 4. 明石高専のアドミッションポリシーと学習・教育目標

## 5. 組織と校務分担

## 6. 学級担任

## 7. 科目担当

- 8. 部活動の顧問
- 9. 学寮の宿日直
- 10. 教育活動への参加
- 11. 明石高専の情報、事務手続き

## 資料4-2-4

## 学校に対する要望書（抜粋）

26-3-1

要望：1. ホームルーム運営について：連絡を早くして欲しい 2. 進路指導について：慎重に対応して欲しい 3. 見学旅行について：行き先・金額等、事前相談と報告をして欲しい

回答：校長が当該教員との面談を行い、学生とのコミュニケーションを図り、学級運営を円滑に行うよう改善を要望しました。

26-3-2

要望：授業・シラバスについて

シラバスの内容に沿った授業を進めて欲しい

回答：校長が当該教員との面談を行い、改善を要望しました。

学外関係者の意見は、主に進路先及び卒業生、修了生アンケートと企業・大学・行政からの委員で構成される有識者懇談会により聴取している。

進路先および修了生アンケートは平成26年2月に実施し、30企業（大学院を含む）と33名の修了生から回答を得た。集計結果はFD委員会、専攻科・JABEE委員会合同で報告し、学内LANに掲載した（資料4-2-5）。

有識者懇談会は、平成23年9月、平成25年1月、平成26年2月、平成26年11月、平成28年1月に開催し、その協議内容は各回の「有識者懇談会報告書」（資料4-2-1）で報告した。

平成27年度有識者懇談会において、グローバル・コンピテンシーや明石高専への期待等に関する提言がなされており、各専門委員会においてその検討を行っている。これまでの経過として平成25年度にアクティブラーニングセンター運営委員会、平成27年度にグローバルエデュケーションセンター運営委員会（旧・国際交流センター）、グローバルエデュケーションオフィス（通称：グローバルテラス）を設置し、本校におけるアクティブラーニングおよびグローバル人材育成の円滑な推進を図る施策をとっている（資料4-2-6）。平成27年度のグローバル事業において、海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに7名、留学プログラム（夏期研修、春期研修）に約60名が参加している。

平成27年6月には明石高専熟議DAYを開催し、教員、学生、ステークホルダーによる議論の場を設けることで、明石高専の課題や解決策を探り、教育改善に役立てられている（資料4-2-7）。



資料4-2-5

進路先および修了生アンケート結果（抜粋）  
教育目的の反映度合（人）

対象者	教育目的	明石高専の授業やカリキュラムへの反映度合				
		反映されている	どちらかといえば 反映されている	どちらともい えない	どちらかといえば 反映されていない	反映されてい ない
修了生	健康な心身と豊かな人間性	7	14	11	1	0
	柔軟な問題解決能力	10	15	6	1	1
	実践的な技術力	15	12	6	0	0
	国際性と指導力	2	5	19	5	2
企業	健康な心身と豊かな人間性	3	7	2	0	0
	柔軟な問題解決能力	1	8	3	0	0
	実践的な技術力	3	4	5	0	0
	国際性と指導力	1	2	7	2	0
大学院	健康な心身と豊かな人間性	6	9	1	1	0
	柔軟な問題解決能力	4	7	5	1	0
	実践的な技術力	10	4	1	0	1
	国際性と指導力	1	4	9	1	2

資料4-2-6

## 年度計画実施状況報告書（平成27年度）（抜粋）

<b>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</b>	
・平成27年度入学者から必修科目で「アクティブラーニングⅠ」を開講し、学生の主体的な学習に向けた計画とする。	平成27年度前期に1年生の授業科目として「アクティブラーニングⅠ」を開講した。学生に主体的な学習の手法を体験させた。
<b>3 国際交流等に関する事項</b>	
・海外から教員を招聘し、英語による授業及び教職員研修等を検討する。	グローバルエデュケーションセンターにおいて、ブリテイッシュカウンシル専門講師による教員対象の英語教授法の講義開催を3月に開催し、34名の教員（技術職員を含む）が参加した。

（出典 明石工業高等専門学校 年度計画実施状況報告書（平成27年度））

## 資料4-2-7

ワーク①「いまの明石高専の良いところ・悪いところ」全体共有（抜粋）

- 1) ワーク①で出された意見の中から、これぞと思う意見を10点程度話し合っ選ぶ
- 2) テーブルマスターが班で選んだ意見をポストイットに書き出し、前に提出
- 3) 昼休み中、ファシリテーターらが各班から出された意見をまとめて8個のテーマに分類
- 4) 昼休み後、出た意見の振り返り

▷ もっと明石高専の実態を正しく伝えるためには？

学校の広報/情報発信が少ない/企業の評価/学校のPR/よく知らない/学校の目指すべき姿/外部からの評価/中学校への働きかけ少ない/情報共有不足/学校の見える化/成果の学内通知がない/学生への情報提供が少ない

▷ もっと国際力を高めるには？

英語留学/学外交流/留学制度/日本にいる留学生の受け入れ/留学生の中学校への講師派遣/さらなる国際化/留学しやすい環境/海外に行く機会多い etc..

▷ 学生の想像力・主体性を伸ばすためには？

学生の特性/社会問題に対して関心度が低い/個性が強い/壁破りな人が少ない/想像力の欠如/主体性のなさ/色々しすぎ/その場しのぎの学生/学内の問題に対し積極的に対処する先生が少ない/コンテスト・賞 etc..

▷ どんな進路を目指したらいいか？

進学・就職率が高い/優秀すぎ/学力が高い/真面目/恵まれた進路/個性/進学率が高い/素晴らしい進学実績/進学の幅が狭い/あまり実践的な技術を教えていない/高専は進学のための通過点/一流企業 etc..

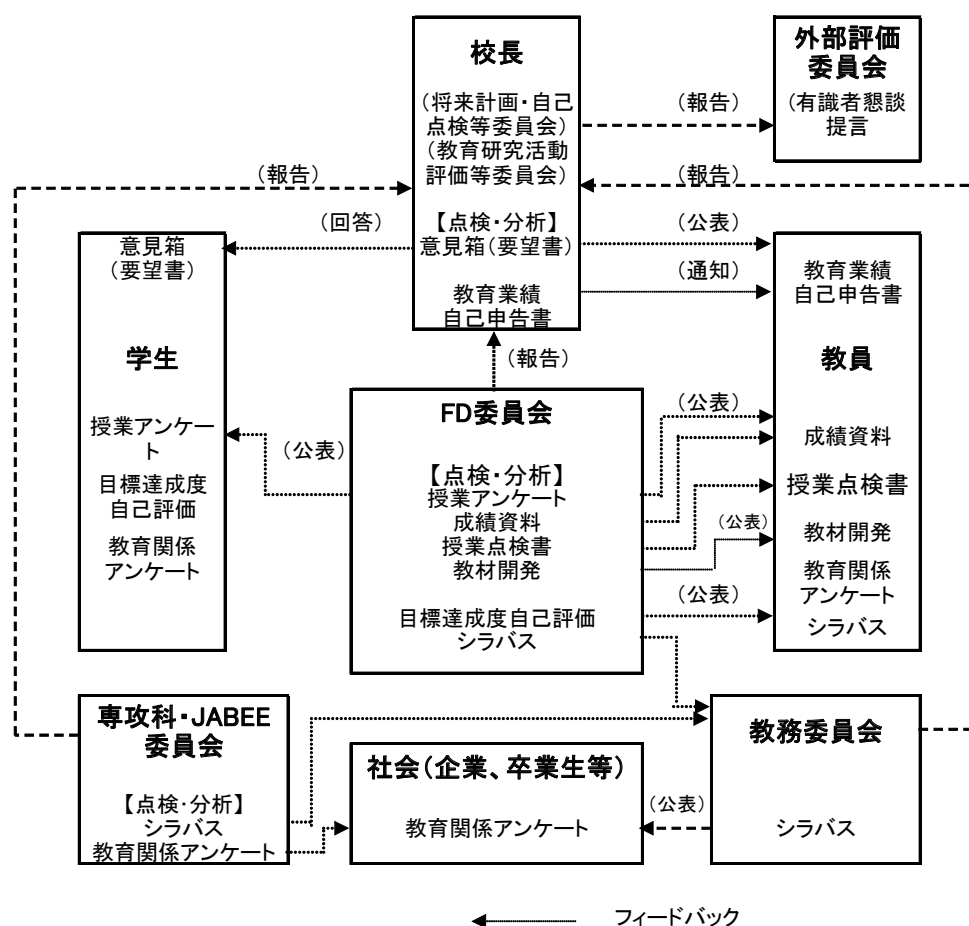
(出典 熟議DAY in 明石高専)

### 2.3 学習達成度評価及び授業アンケート等の結果による教育の質の向上と改善への取組

本校の各組織は全て校長直属の下、恒常的に校長を補佐し必要な点検改善を実施してきた（図4-2-2）。特に、教育課程の編成と教育計画の立案を担う教務委員会、専攻科・JABEE委員会、教育活動についての点検改善を担うFD委員会が恒常的な点検改善を行っている。

FD委員会は「授業アンケート」「学習目標達成度自己評価」等から得た資料を分析し、その結果を教務委員会、専攻科・JABEE委員会に報告する。教務委員会、専攻科・JABEE委員会は、FD委員会から提出された報告や学生からの要望（意見箱から校長が選別）等をもとに教育課程の見直し等の審議を行っている。この他、平成6年以降、本校の活動に対する総合的な点検評価を自己点検・自己評価委員会（平成16年度から将来計画・自己点検等委員会に改組）を設けて行い、評価結果は平成23年3月に報告書（明石工業高等専門学校の実状と課題）として公表した。さらに、平成16年度に、教員の教育・研究活動の評価と運用に関する事項を検討するために教育研究活動評価等委員会を設置した。なお、平成23年度認証評価における自己点検・評価報告書も公表し、学校全体で現状の課題等の抽出及び改善へ取り組んでいる。

図4-2-2 点検改善の実施体制



## 2.4 教員の教育改善への取組

学生による評価として、授業方法等の8項目の5段階評価とともに学生の自由記述欄、及びそのまとめが授業アンケートとして実施され、その結果は平成14年度から学内LAN上で全て公開されている（資料4-2-8）。個々の教員は学生の授業アンケートによる評価結果に基づいて、教育の質の向上を図り、教授内容等の継続的改善を行っている。例えば、学生の授業評価において3未満の得点項目に関しては、改善策の提案を求めるシステムが確立している。また、各教員からは、自己評価としての授業点検書の提出が平成14年度から主として4年生以上の全科目に、平成16年度から全科目に義務付けられている（資料4-2-9、表4-2-2）。授業点検は学期ごとに実施され、教員相互の授業方法・成績評価等のチェック機能を果たしている。

FD委員会は教育改善の取り組みとして、毎年授業に関する意見交換会を開催している（資料4-2-10）。平成26年度より、アクティブラーニングセンター主導で教授法に関する新たな取り組みも行われ、本研修に毎回10名弱の教員が参加して教育改善に取り組んでいる（資料4-2-11）。

さらに、独自の教材開発に対する自己申告制度を設けている（表4-2-3）。シラバスに関しては、学習・教育到達目標との整合性を図るため、専攻科・JABEE委員会にて常に再確認を行っている（資料4-2-12）。

資料4-2-8

### 学生による授業アンケート結果（学内LAN）

The screenshot shows a web browser window with the following content:

- Address bar: <http://jdb.jnet/kyoumu/fd/horr>
- Page Title: FD委員会 インデックス
- Menu: ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
- Page Header: FD委員会
- Main Title: FD委員会 授業アンケート【結果】
- Left Sidebar (Navigation Menu):
  - メンバー
  - PDCAサイクルお知らせ
  - 活動報告
    - ・ 教員研修
    - ・ 授業アンケート(実施要領等)
    - ・ 授業アンケート(結果)
    - ・ 授業の公開・研究授業
  - ・ 教科・学科間
  - ・ 成績資料
  - ・ 目標達成度
  - ・ 教材開発
  - ・ その他
- Main Content (List of Survey Results):
  - [平成27年度授業アンケート結果](#)
  - [平成26年度授業アンケート結果](#)
  - [平成25年度授業アンケート結果](#)
  - [平成24年度授業アンケート結果](#)
  - [平成23年度授業アンケート結果](#)
  - [平成22年度授業アンケート結果](#)
  - [平成21年度授業アンケート結果](#)
  - [平成20年度授業アンケート結果](#)
  - [平成19年度授業アンケート結果](#)
  - [平成18年度授業アンケート結果](#)
  - [平成17年度授業アンケート結果](#)
  - [平成16年度授業アンケート結果](#)
  - [平成15年度授業アンケート結果](#)
  - [平成14年度授業アンケート結果](#)

資料4-2-9

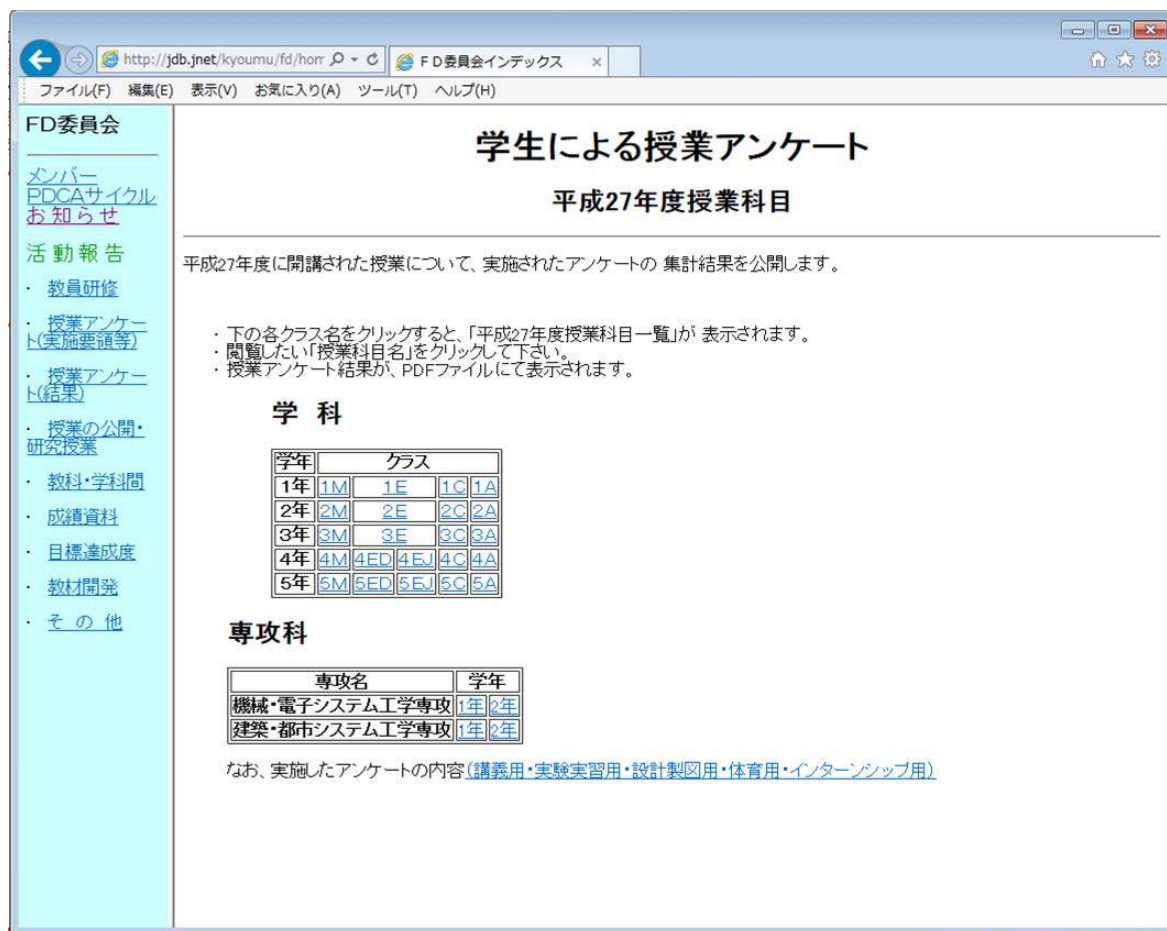


表4-2-2 授業点検集計表 (平成23年度～平成27年度)

平成23年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
一般科目	161	100%	99%	99%	100%	100%	89%	100%	100%	98%	76%	6%
機械工学科	37	100%	100%	97%	97%	97%	95%	100%	100%	95%	57%	3%
電気情報工学科	136	100%	99%	94%	96%	99%	87%	99%	100%	93%	37%	7%
都市システム工学科	83	100%	100%	99%	100%	100%	99%	100%	100%	99%	59%	5%
建築学科	62	100%	100%	98%	100%	100%	94%	100%	100%	98%	81%	2%
全学科	479	100%	100%	97%	99%	100%	91%	100%	100%	96%	61%	5%

IV 教育の成果及び改善システム

平成24年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか？	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか？	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか？	適切な教材を用いているか？	学生の授業中の反応をチェックしているか？	レポートや小試験を実施しているか？	成績評価はシラバスどおり行ったか？	成績評価の根拠となる資料は残しているか？	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか？	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか？	本授業科目の実施上で何か問題があるか？
一般科目	59	95%	100%	100%	98%	100%	98%	100%	100%	93%	66%	0%
機械工学科	20	100%	100%	100%	100%	100%	95%	100%	100%	100%	45%	5%
電気情報工学科	59	100%	98%	97%	100%	100%	86%	98%	100%	93%	46%	5%
都市システム工学科	33	97%	100%	100%	100%	100%	97%	100%	100%	94%	70%	3%
建築学科	30	100%	100%	97%	100%	100%	100%	100%	100%	83%	60%	0%
全学科	201	98%	100%	99%	100%	100%	95%	100%	100%	93%	58%	2%

平成 25 年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか？	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか？	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか？	適切な教材を用いているか？	学生の授業中の反応をチェックしているか？	レポートや小試験を実施しているか？	成績評価はシラバスどおり行ったか？	成績評価の根拠となる資料は残しているか？	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか？	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか？	本授業科目の実施上で何か問題があるか？
一般科目	146	99%	99%	95%	100%	100%	95%	100%	100%	86%	60%	5%
機械工学科	69	88%	81%	87%	88%	88%	80%	88%	88%	71%	36%	10%
電気情報工学科	108	85%	86%	71%	86%	86%	72%	84%	85%	79%	31%	6%
都市システム工学科	84	95%	94%	95%	95%	95%	93%	95%	95%	90%	71%	6%
建築学科	67	85%	84%	82%	84%	84%	78%	85%	85%	70%	55%	0%
全学科	474	92%	91%	86%	92%	92%	85%	92%	92%	81%	51%	5%

平成 26 年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか？	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか？	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか？	適切な教材を用いているか？	学生の授業中の反応をチェックしているか？	レポートや小試験を実施しているか？	成績評価はシラバスどおり行ったか？	成績評価の根拠となる資料は残しているか？	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか？	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか？	本授業科目の実施上で何か問題があるか？
一般科目	66	98%	100%	86%	100%	100%	100%	100%	100%	88%	67%	6%
機械工学科	22	100%	86%	95%	100%	100%	91%	100%	100%	82%	41%	18%
電気情報工学科	58	100%	98%	91%	98%	100%	81%	100%	100%	95%	40%	5%
都市システム工学科	45	100%	100%	100%	100%	100%	96%	100%	100%	96%	58%	4%
建築学科	26	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	81%	77%	4%
全学科	217	100%	98%	93%	100%	100%	93%	100%	100%	90%	56%	6%

平成 27 年度

学科名	回答科目数	設問に「はい」と回答した科目数の割合(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来たか？	授業の冒頭でシラバスの内容を説明したか？	授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できたか？	適切な教材を用いているか？	学生の授業中の反応をチェックしているか？	レポートや小試験を実施しているか？	成績評価はシラバスどおり行ったか？	成績評価の根拠となる資料は残しているか？	学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしているか？	学生からのアンケート結果を授業に反映させているか？	本授業科目の実施上で何か問題があるか？
一般科目	129	99%	98%	96%	99%	98%	99%	99%	99%	99%	84%	0%
機械工学科	35	100%	100%	100%	100%	100%	94%	100%	100%	100%	97%	0%
電気情報工学	71	100%	97%	92%	97%	99%	77%	100%	100%	100%	96%	0%
都市システム	57	98%	100%	100%	100%	100%	98%	100%	100%	100%	89%	0%
建築学科	29	100%	100%	97%	100%	100%	97%	100%	100%	100%	90%	0%
全学科	321	99%	99%	96%	99%	99%	93%	100%	100%	100%	89%	0%

資料4-2-10

## 研究授業（意見交換会）の案内

機械工学科教員各位

松塚（FD 委員）です。  
いつもお世話になっております。

当日のご連絡となりまして大変申し訳ございません。

10月22日の学科会議でお伝えしました通り、11月10日（火）に藤原先生にご協力いただきまして、研究授業（英語での授業）を実施いたしました。  
本日、研究授業の意見交換会を以下の通り実施いたします。

- ・日時：11月16日（月）放課後（16:20～）
- ・会場：テクノセンター会議室

授業を参観されなかった先生方もご参加いただけるとのことですので、英語での授業へのご関心や放課後お時間がございましたら、ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

（出典 平成27年度研究授業意見交換会の案内メール）

資料4-2-11

## 教授方法勉強会の参加者募集について

2015年3月10日 教員会資料  
アクティブラーニングセンター

以下のとおり、来年度も教授方法の勉強会を開催します。参加を希望される教員の方は、3月16日（月）までに岡田までご連絡ください。

- ・実施スケジュール：2015年4月中旬～2015年7月（予定）
- ・募集人数：数名～10名程度
- ・申込み及び問い合わせ：AP担当 岡田大輔

Email : dokada@akashi.ac.jp TEL : 内線 6026

例えば、「より学生が自ら考えるような授業にしたい」「新たな機器を取り入れ授業をしてみたい」などをはじめとして、多くの先生方の参加をお待ちしています。

（出典 平成27年度教授方法勉強会の案内 教員会で配布 抜粋）

表4-2-3 教材開発(抜粋)

学科名	開発者	開発年月	教材の種類	教材の概要	教材の使用状況または使用予定			
					学年	学科名	授業科目	使用開始(予)
一般科目	穉本 浩美	平成17年01月	教科書(共著)	「American History in Focus」(マグランゲン・ハウス)映画『フォレストガンブ 一期一会』を使用し現代アメリカ史を12のテーマに分けて編集された大学教養課程の英語授業用教科書。英語力向上を促すことに加え文化的側面を理解するエクササイズが用意されてある。主なトピックに、KKKの暗躍、ケネディ大統領暗殺、ベトナム戦争介入と戦後後遺症、ヒッピー文化、ウォーターゲート事件などが収録されてある。	5	全学科	英語C	平成17年04月
都市システム工学科	友久 誠司	平成19年04月	自著教科書	土質実験法(改訂版)(鹿島出版会) 大学、高専、工業高校などの土質調査、土質試験の学習で扱うものにふさわしい項目を取り上げ、その指導書として編集されたものである。特に、著者はすべて高専で土質実験にたづさわっている者で、試験方法や結果の工学的意味から実用までを視覚を通してわかりやすく解説している。	4	都市システム工学科	工学実験Ⅱ	平成19年04月
建築学科	中川 肇	平成18年12月	その他(木造模型教材・DVD教材)	明石高専出前講義は平成16年度から実施されている。この出前講義は防災、地震をテーマとした講演を実施するために、平成17年から2年間、大地震時の木造住宅の倒壊の様子を再現できる模型教材を開発し、実験の様子をビデオカメラで撮影しDVD教材(ナレーションなし)を作成した。既に、出前講義で1回、市民講演で2回紹介している。土質実験法(改訂版)(鹿島出版会) 大学、高専、工業高校などの土質調査、土質試験の学習で扱うものにふさわしい項目を取り上げ、その指導書として編集されたものである。特に、著者はすべて高専で土質実験にたづさわっている者で、試験方法や結果の工学的意味から実用までを視覚を通してわかりやすく解説している。		出前講義で使用		平成18年12月
電気情報工学科	大向 雅人	平成19年06月	その他(演習付きのテキスト概要)	他学科の3年生が半年で電気磁気学と電気回路(交流理論)の基礎が身に付く教材	3	都市システム工学科	工学基礎Ⅲ	平成19年10月
電気情報工学科	大向 雅人	平成10年02月	その他(演習付きのテキスト概要)	半導体を中心とした電子物性を定量的に解説した。数学的な基礎もその都度説明を入れている特徴がある。また、演習もつけている。	4	電気情報工学科	電気電子材料	平成10年04月
電気情報工学科	上 泰	平成19年09月	テキスト	4端子回路網について、時には教科書とは別のアプローチをとりながら要点をまとめたものである。講義の進行は、本資料の配付が前提となるため学生にノートを取らせる時間を省略し、ほぼ毎回の講義で20~30分の演習時間の確保ができるようになった。	3	電気情報工学科	回路論(後期)	平成19年10月
都市システム工学科	鍋島 康之	平成20年04月	その他(講義の補助教材)	地盤工学Ⅰ、地盤工学Ⅱの講義で教科書に記載されていない内容やより詳細な説明を追加した補助教材を作成した。	3・4	都市システム工学科	地盤工学Ⅰ 地盤工学Ⅱ	平成20年04月
電気情報工学科	佐村 敏治	平成18年06月	その他(e-learning教材)	「Webベースタッチタイピング学習システム」コンピュータ初学習者のために、Webブラウザでタッチタイピングを学習するシステムを開発した。本システムは学内であればどこでも利用することができる。また、タイピング試験を行えるようにユーザ認証機能や試験結果履歴機能等を装備している。毎回授業中にタイピング試験を行っている。	1	都市システム工学科	コンピュータ基礎	平成18年07月
建築学科	中川 肇	平成20年09月	テキスト	4年建築学科、建築構造力学Ⅲで使用される教材で、不静定構造物の理論及び演習問題を数多く掲載している。高専生に十分理解できる内容としている。大学編入学試験、大学院入試にも対応できるように演習問題を作成している。	4	建築学科	建築構造力学Ⅲ	平成20年10月
電気情報工学科	堀 桂太郎	平成18年12月	教科書(自著)	図解Verilog HDL実習(森北出版)ハードウェア記述言語を用いたデジタル回路設計手法の基本を実践的な実習により学べる高専・大学向けの教科書	専2	機械・電子システム工学専攻	デジタル回路設計	平成19年04月
電気情報工学科	堀 桂太郎	平成20年07月	教科書(自著)	PSpiceで学ぶ電子回路設計入門(電気書院)電子回路シミュレータを用いて回路の動作を確認しながら、電子回路設計の基本を習得する高専・大学向けの教科書	5	電気情報工学科	電子回路設計	平成20年07月
電気情報工学科	上 泰	平成21年04月	テキスト	古典制御の基礎について、できる限り平易にまとめた講義ノートである。これまでは更紙プリントで配布していたが、見づらいパラパラになる等の問題点から製本化の要求が出ていたこともあったので、製本化して学生に持たせ、ノートを取らせる時間を省略し、ほぼ毎回の講義で20~30分の演習時間の確保ができるようになった。	4	電気情報工学科	制御工学	平成21年4月
一般科目	穉本 浩美	平成20年01月	教科書(自著)	映画『カザランカ』で学ぶ英会話表現。映画を用いて学生のモチベーションを高める教材として執筆。実際の会話で使われる表現を映像とリスニングを通して学習出来る構成となっている。	5	全学科	英語C	平成20年04月
一般科目	穉本 浩美	平成21年01月	教科書(自著)	映画『ローマの休日』で学ぶ日常で使える英語表現映画を用いて学生のモチベーションを高める教材として執筆。日常生活で使われる表現を映像とリスニングを通して学習出来る構成となっている。	3	全学科	英語ⅢA	平成21年04月
建築学科	中川 肇	平成25年09月	教科書(自著)	基礎から学ぶ建築構造力学 理論と演習からのアプローチ本書は、高専生および大学生を対象に、全18章で構成し、1~14章を「静定力学編」、15~18章を「不静定力学編」と区分し、できる限り理論を丁寧に記述し、多くの例題、演習問題・解説を通じて理解を深めるように編集している。	4	建築学科	建築構造力学Ⅲ	平成26年4月



資料4-2-12

専攻科・JABEE 委員会議事録（抜粋）

## 1. 「共生システム工学」教育プログラムにおける科目の分類について

科目構成表（学習履歴点検表）において、同一科目が電気電子工学コースと情報工学コースで異なる分類となっていることについて分類を揃えるほうがよいか検討したが、従来どおり異なる分類のままとすることとなった。

2年生の ME（M系）学生が他専攻履修している「構造システムⅡ」は「専門応用系」に分類することとなった。

2年生の AC（A系）学生が本科5年生で取得した「プロダクトデザイン」（E科科目）は設計・システム系に分類することとなった。

2年生の AC（C系）学生が本科5年生で取得した「コンピュータシミュレーション」（E科科目）は専門応用系に分類することとなった。

（出典 平成27年度臨時専攻科・JABEE委員会議事録）

## 2.5 研究活動による教育の質の改善

各教員の担当科目と研究内容等については、本校ホームページに研究者総覧として公表している（資料4-2-13）。本校では年1回、研究紀要（資料4-2-14）を発行しており、教員等の研究の成果が報告されている。また、専攻科特別研究の成果を報告するための研究年報も年1回発行され（資料4-1-3）、同様に巻末には専攻科生の学会発表等の状況も掲載されている（表4-1-6）。テクノセンターを中心とした地域の企業や自治体、NPO・民間組織などとの共同・受託研究も含めて、教員研究は卒業研究、専攻科特別研究などに反映されており、学生の学術賞等受賞の実績もある（表4-1-7）。

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われ、テクノセンターを中心とした学外との共同研究・受託研究の実績も重ねてきている。これらの成果が学生の卒業研究や専攻科特別研究に反映され、専門科目の授業内容にも活かされている。なお、平成27年度の学位授与機構による特例適用専攻科の審査において、本校の専攻科は全て特例適用専攻科（教員の研究業績評価により、大学改革支援・学位授与機構による試験が免除される特例）と認定された。このことより、研究活動が教育の質の改善に活かされていることが示されている。

資料4-2-13

研究者総覧（明石高専ホームページ）



お問い合わせ | 交通アクセス・キャンパスマップ | 教育・研究施設 | 教職員公募  
 受験生の方 | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方 | 卒業生の方

Japanese | English  
 検索

学校案内 | 学科・専攻科 | 入試情報 | 学生生活 | 就職・進学 | 教育・研究 | 地域・国際連携 | 産学官連携

トップページ >> お知らせ >> 研究者総覧

学校案内

クラブ・同好会

学科・専攻科

入試情報

学生生活

就職・進学

教育・研究

地域・国際連携

産学官連携

リンク集

研究者総覧

更新日：平成27年5月18日

平成27年度の明石高専研究者総覧です。  
 本研究者総覧はResearchmapから提供されている情報です。  
 各研究者氏名をクリックすると、Researchmapが提供する各研究者の情報  
 が表示されます。

一般科目	機械工学科	電気情報工学科	都市システム工学科	建築学科
番塔 正志				
仁木 夏実				
本間 哲也				
石田 祐	加藤 隆弘	大向 雅人		
高田 功	加藤 真司	佐村 敬治	石丸 和宏	大塚 毅彦
松宮 薫	堤出 彰秀	堀 保雄	江口 忠臣	工藤 和美
面田 康裕	関森 大介	中井 徹一	神田 佳一	坂戸 省三
武田 ひとみ	森下 智博	濱田 幸弘	権 和秀	田坂 誠一
長尾 秀人	岩野 優樹	堀 桂太郎	鍋島 康之	平石 年弘
倉光 利江	史 昂輝	新井スマイル	石内 鉄平	八木 雅夫
小笠原 弘道	藤原 誠之	梶村 好宏	稲積 真哉	荘所 直哉
松下 幸一	松塚 直樹	上 泰	高見 敬	中川 肇
後藤 太之	大森 茂俊	岡山 大慶	武田 字浦	東野 アドリアナ
橋本 浩美	田中 誠一	成枝 秀介	三好 崇夫	水島 あかね
飯島 睦美	石田 百合子	細川 篤	渡部 守義	角野 嘉則
松田 安隆		廣田 毅志		
井上 英俊				
ハーバート ジョン				

資料4-2-14

明石工業高等専門学校研究紀要 第58号 (平成28年2月)

目次

(研究論文)

- ピエゾセンサーを用いた木のひずみ計測 …… 石丸 和宏、浅葉 健太、清水 恭平 (1)
- リーニ二相系ステンレス鋼溶接箱形短柱の初期不整 …… 三好 崇夫、切山貴文 (7)
- 長周期地震動を受ける二段階免震構造物の地震応答特性について …… 中川 肇、前田 智香 (15)

(教育論文)

- アクティブラーニングの成果に関する意識調査報告 …… 田坂 誠一、石田 百合子、保田 洋 (20)
- 数学の授業におけるアクティブラーニングの効果について …… 面田 康裕 (26)
- パーソナル・ファブリケーション教育のための歩行ロボット教材の開発 …… 中村 陽介、大西 一生、  
西村 厳生 (31)
- クラウドサービス導入とメールアカウント一括管理システムの構築 …… 中川 卓也、福田 豊、  
大向 雅人 (37)

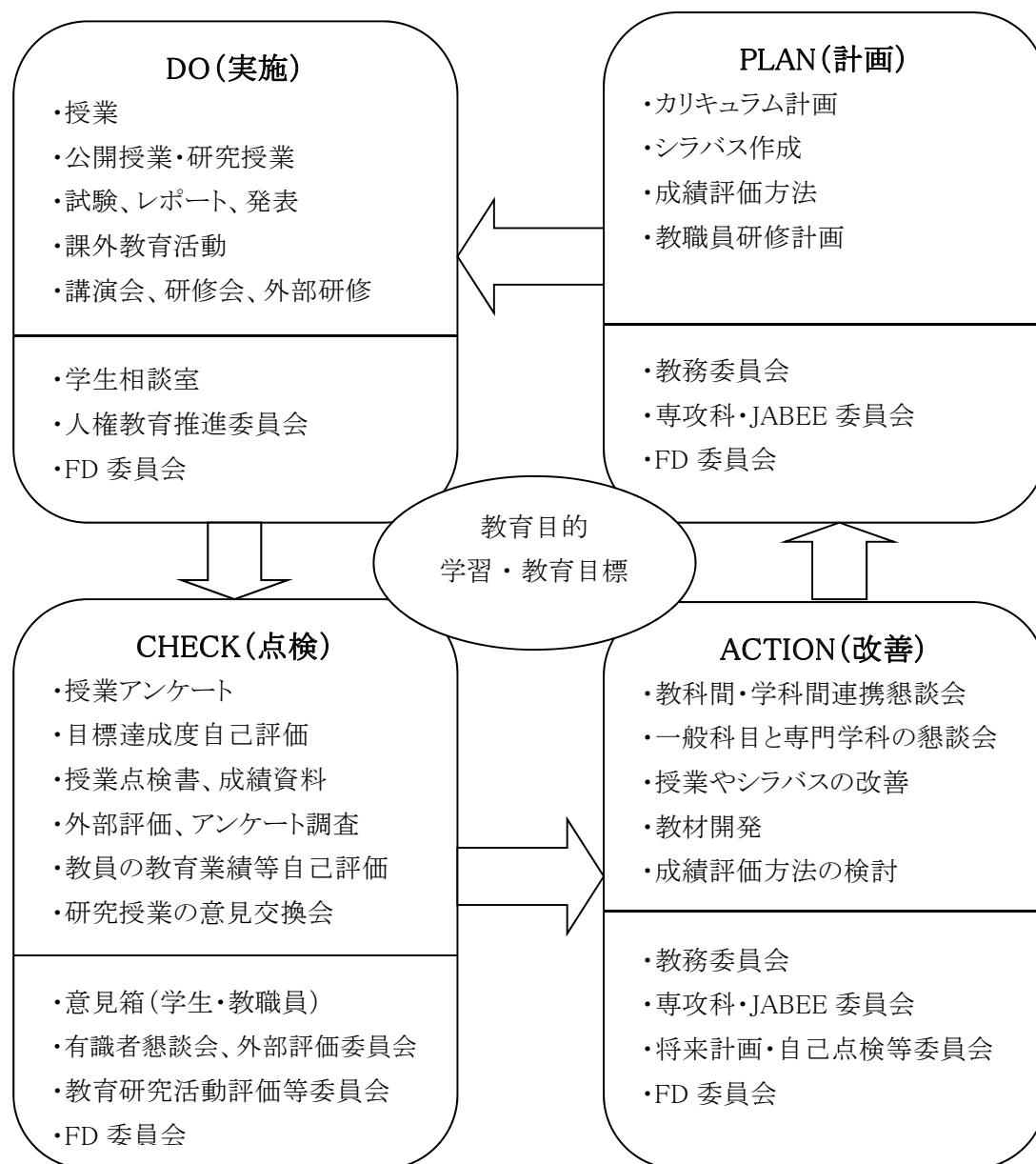
(出典 明石工業高等専門学校研究紀要 第58号)

### 3. 教員と教育支援者の資質向上のシステム

#### 3.1 FD（ファカルティ・ディベロップメント）の取組と成果

本校では、教員の資質向上を図るため平成16年度よりFD委員会を設置し、教育の質の向上と授業の改善に取り組んでいる。FD活動は、本校の教育目的及び学習・教育目標を達成するため、計画・実施・点検・改善というPDCAサイクルに基づいて実行される（図4-3-1）。

図4-3-1 PDCAサイクルに基づくFD活動



平成16年11月には、学内LANにFD委員会のホームページを設置し、FD活動の実施状況、懇談会等のまとめと資料、授業アンケート、公開授業における授業参観者アンケートの結果等、教員の質的向上と教育改善に役立つ情報が全教職員に開示されている。(図4-3-2)

FD活動に関する委員会等の組織の関係は図4-2-2に示すとおりである。FD活動は中期計画の一環として将来計画・自己点検等委員会において策定され(資料4-3-1)、教務委員会や専攻科・JABEE委員会との連携により計画・実施される。

図4-3-2 FD委員会のホームページ

FD委員会	FD委員会 お知らせ
<a href="#">メンバー</a> <a href="#">PDCAサイクル</a> <a href="#">お知らせ</a> <b>活動報告</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">教員研修</a></li> <li>• <a href="#">授業アンケート(実施要領等)</a></li> <li>• <a href="#">授業アンケート(結果)</a></li> <li>• <a href="#">授業の公開・研究授業</a></li> <li>• <a href="#">教科・学科間</a></li> <li>• <a href="#">成績資料</a></li> <li>• <a href="#">目標達成度</a></li> <li>• <a href="#">教材開発</a></li> <li>• <a href="#">その他</a></li> </ul>	<p><b>授業の公開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">2016年度前期「授業の公開」</a></li> <li>• <a href="#">2016年度前期「授業の公開」に関する意見のまとめ</a></li> </ul> <p><b>授業アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">授業アンケート【実施要領等】</a></li> <li>• <a href="#">授業アンケート【結果】</a></li> </ul> <p><b>教員マニュアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">教員マニュアル</a>(word形式)</li> </ul> <p><b>担任マニュアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">担任マニュアル(平成25年度版)</a>(PDF形式)</li> </ul>

資料4-3-1 将来計画・自己点検等委員会規程(抜粋)

将来計画・自己点検等委員会規程(抜粋)

(趣旨)

第1条 中期計画等の策定並びに自己点検及び自己評価(以下「自己点検等」という。)を行うため、将来計画・自己点検等委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもつて組織する。

- (1) 副校長(総務担当)、副校長(組織改革担当)及び校長補佐
- (2) 各学科長及び一般科目長
- (3) 事務部長及び各課長
- (4) その他校長が指名する者

(出典 明石工業高等専門学校規則集)

FD 委員会は、委員会規程に基づいて FD 活動を具体的に計画し実施する組織である（資料 4-3-2）。委員会は各科の教員により構成され、活動内容については教員のニーズが反映されている。また、学生や教職員が自由に意見を投稿できる意見箱が設置されている。教職員意見箱については意見の早期把握を目的に平成 22 年 8 月より Web 方式に変更されている（図 4-3-3）。

授業の公開は平成 14 年度から毎年行われている。前期と後期にそれぞれ 1 回ずつ、1 週間の期間に渡りすべての授業が全教員、保護者を対象に公開されている。授業参観の意見は学内 LAN に開示するとともに、「工夫が見られた点」、「改善意見」、「保護者の意見」等を当該教員に印刷配布し、授業の改善に役立てている。また、毎回議事録をまとめて学内 LAN にて開示している（資料 4-3-3）。

教育に関する教科間・学科間の連携を図るための懇談会を平成 14 年度から平成 27 年度まで毎年実施している（表 4-3-1）。平成 28 年度以降はアクティブラーニング教育、グローバル教育等の学科間の連携を超えた教育が通常に行われるようになったため、アクティブラーニングセンター等との共催として研修会を行うようになる予定である。

教職員研修については、教職員の資質向上を図るための研修会や講演会を実施している（表 4-3-2）。また、新任教員を対象にガイダンスを実施しており（資料 4-3-4）、校長、副校長及び校長補佐から講話を受け、更に教員マニュアルを配布して教育業務の円滑な遂行を支援している（資料 4-3-5）。

教員の授業方法の改善については、授業点検書の作成及び授業アンケートへの講評やコメントの記入により実施している。FD 委員会では教員から提出された書類を集計し、その結果を取り纏めて学内 LAN に開示している（資料 4-3-6（授業点検書）、資料 4-3-7（授業アンケート【担当教員からの講評】）、資料 4-3-8（授業アンケート【授業の改善すべき点】））。

#### 資料 4-3-2

#### FD 委員会規程（抜粋）

（趣旨）

第 1 条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員研修に関すること及び教育活動についての点検・改善について、審議するため FD 委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- （1）教員研修に関すること。
- （2）授業アンケートに関すること。
- （3）授業公開に関すること。
- （4）教育に関する教科間・学科間の連携に関すること。
- （5）成績資料の点検に関すること。
- （6）シラバスの点検とフィードバックに関すること。
- （7）学生の目標達成度の点検とフィードバックに関すること。
- （8）その他の教育の点検・改善に関すること。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

図4-3-3 明石高専教職員意見箱

## 『明石高専教職員意見箱』

教職員の皆様へ

本校を取り巻く教育環境の変化に即応するため、教職員から学校運営等に関する意見を広く求めることにより、不断の改善を行い、もって本校の発展に資することを目的として『明石高専教職員意見箱』を開設しています。

皆様からの法人運営及び学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘をお待ちしております。

▼ 高専意見箱 送信フォーム ▼

氏名  [任意/匿名可]

連絡先tel  [任意]

連絡先mail  [任意]

ご意見、ご要望、ご指摘等(分かりやすい表現で明確に記入して下さい)

区分(1)  [選択必須]

区分(2)  [選択必須]

事項名  [必須] [入力例:○○○○○について]

内容  [必須]

送信前に確認画面が表示されます

## 資料 4-3-3

## 平成 27 年度授業の公開 保護者・中学校教員アンケート結果

- ・保護者アンケート：28件 中学校教員アンケート：5件
- 【質問1 感想】良かった：28件 悪かった：0件 どちらでもない：3件 無回答：2件
- 【質問2 参加意思】是非：14件 時間があれば：18件 無回答：1件
- 【質問3 時期】保護者懇談会の週：21件（うち、「11月頃」も併記しているもの1件）  
6月下旬～7月上旬：3件 11月中旬：1件  
いつでも：3件 無回答：5件
- 【質問4 良い点】
- ・ 良いお天気ですがきっと水は冷たいのでしょう。でも3ヶ月が過ぎ元気そうな姿で安心しました。
  - ・ 内容はむずかしくてわからなかったのですが物理の考え方とか法則の考えとかたいへん勉強になりました。雑学もまたおもしろかったです。ありがとうございました。
  - ・ 参観しやすかったです。
  - ・ 大震災を経験していない世代にとっては、体験に基づく講義は貴重だと思う。
  - ・ みなさん親切で、案内や声がけていただいたので見学しやすかったです。
  - ・ 普段の授業風景が見られたと思う。
  - ・ 学生は廊下ですれ違った時あいさつを自らしてくれ礼儀正しかったです。授業はどのクラスどの学年も熱心に聞いていて好ましかった。
  - ・ 分かり易そうな（内容は分かりませんが）聞きとり易い授業でした。
  - ・ コンピューターの部屋にも入れて、どのような授業を受けているのか気になっていたの、良かった。学食も食べれたので、久しぶりに学生気分が味わえた。

(出典：学内資料)

表 4-3-1 教育に関する教科間・学科間の連携懇談会

年度	開催月日	懇談会名
23	9月3日	委員会間連携懇談会
	9月26日	自然科学担当教員と専門学科教員との懇談会
	12月9日	キャリア支援教育懇談会
24	9月24日	学習支援に関する懇談会
	12月5日	インターンシップへの取り組みに関する懇談会
25	9月27日	クラス運営に関する懇談会
	11月28日	グローバルFDに関する懇談会
26	9月25日	授業外学習の可視化に関する懇談会
	12月3日	PDCA サイクルによる教育改善
27	9月28日	グローバル化に向けた取り組みに関する懇談会
	12月4日	学修単位化に向けての懇談会



表4-3-2 教職員対象の研修会（学内）

年度	分類	開催年月日	担当委員等
23	学校の危機管理について	H23. 6. 6	学生相談室
	科研を取りにいくということ	H23. 8. 30	FD 委員会
	モデルコアカリキュラムについて	H23. 12. 19	FD 委員会
24	あなたの教育にかける思いを教えてください- ティーチング・ポートフォリオの紹介-	H 24. 8. 3	学生相談室・人権教育 推進委員会
	教育・研究力向上のための外部研究資金獲得の 重要性	H24. 9. 28	FD 委員会
	医療・健康福祉領域への工学応用と医工学教育 の必要性	H24. 11. 28	FD 委員会
25	男女共同参画社会を目指して-国内外の動向 と高専機構における取組-	H25. 6. 5	学生相談研修会・人権 教育推進委員会
	次世代型教育手法実践モデル構築事業につ いて	H25. 12. 4	総務課、FD 委員会
	青少年のネットでの問題行為	H25. 3. 6	学生相談研修会・人権 教育推進委員会
	富山高専におけるビジネス系学科の現状	H26. 3. 17	総務課、FD 委員会
26	ACTIVE LEARNING (CDIO 研修会)	H26. 6. 5	FD 委員会
	人事交流報告会	H26. 8. 5	FD 委員会
	科学研究費補助金ーその申請におけるポイ ント	H26. 9. 1	FD 委員会
	インド工科大学カンブール校における教 育・研究とアクティブラーニングの現状	H27. 2. 19	FD 委員会
27	英語による授業研修	H28. 3. 15	グローバルエデュケー ションセンター、FD 委 員会

## 資料4-3-4

## 平成27年度新規採用等教職員研修会

1. 開催日時：平成27年4月1日（火）13時30分～
2. 場 所：一般管理棟3階 大会議室
3. 受講対象者：H26.7.1以降本校の教職員となった者で同様の研修未受講の者（非常勤教職員除く）

所 属	職 名	氏 名	採用日等
一般科目	助 教	*****	*****
一般科目	助 教	*****	*****
都市システム工学科	准教授	*****	*****
総務課	財務係主任	*****	*****
総務課	人事係員	*****	*****
学生課	学生係員	*****	*****
総務課	施設係員	*****	*****
	特命助教	*****	*****
	特命助教	*****	*****
	特命助教	*****	*****
	リサーチ・アドミニ ストレーター	*****	*****
	リサーチ・アドミニ ストレーター	*****	*****
	リサーチ・アドミニ ストレーター	*****	*****

教員3名、職員4名、有期雇用教職員6名 計13名

## 4. 研修内容等

時 間	研修内容	講 師
13:30～13:45(15分)	副校長講話	副校長
13:45～14:15(30分)	教務・学生・寮務に関する話	副校長（教務主事） 校長補佐（学生主事） 校長補佐（寮務主事）
14:15～14:30(15分)	明石高専の組織・管理運営について	事務部長
14:30～14:50(20分)	ハラスメントの防止等について DVD「なくそう、防ごう、気づこう、アカ デミック・ハラスメント」鑑賞(約12分)	学生相談室長
14:50～15:00(10分)	休 憩	
15:00～15:15(15分)	公的研究費の不正使用防止について	総務課課長補佐
15:15～15:35(20分)	情報セキュリティ、校内ネットワーク について	情報図書係長
15:35～15:55(20分)	就業規則等について	総務課課長補佐
15:55～16:30(35分)	変形労働時間制、労働状況記録簿記入 説明 及び事務手続き等	人事係

○休憩以降については、H27.4.1異動の6名以外は自由参加とする。

(出典：学内資料)

## 資料4-3-5 教員マニュアル（抜粋）

## 教員マニュアル

FD 委員会作成

## 1. 高等教育機関

- (1)教育と研究の両立
- (2)高専と大学の相違
- (3)教育の3本柱：授業、学生指導、これに係わる校務
- (4)「教育=教科の教育」ではない。授業は教育の柱であっても全体ではない。
- (5)学生としての自覚・自律を求めつつ、必要に応じて高校的な教育方法（例：学生生活における指導、欠席遅刻に対する指導、いわゆる一般の高校で行われている生活指導、LHRを通じた道徳的な指導、黒板や教室の掃除の指導、各種委員の責務の徹底、学生と教員相互による日誌の記述、日直業務の徹底等）を加味しなければならない。
- (6)自由をはき違えることのないように適切に指導しなければならない（例：アルバイト、車、飲酒・喫煙、その他）。

## 2. 明石高専の特色と教育目的

- (1)中学卒業程度以上を入学資格とし、学科5年間と専攻科2年間の教育を行う学校であり、次の特色がある。①幅広い教養教育と早期専門教育 ②実験・実習・演習の重視 ③学科卒業生には「準学士」、専攻科修了生には「学士」の授与 ④多様な進路の保障
- (2)豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した専門の知識・技術を教授し、次の能力を備えた技術者を養成することを目的にしている。①健康な心身と豊かな人間性 ②柔軟な問題解決能力 ③実践的な技術力 ④豊かな国際性と指導力

【明石高専ホームページ】（学校案内—本校の使命と教育目的）を参照

（出典 明石工業高等専門学校 教員マニュアル）

## 資料4-3-6 授業点検書集計

授業科目名	担当教員	クラス	講義・演習・実験	はい:1、いいえ:0									「はい」の場合の具体例	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1 情報基礎	***	1M	講義	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	授業毎に演習時間を設け、自主的な取り組みにより理解を深めさせている
2 機械工学実習 I	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 機械加工学 I	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4 防災リテラシー	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5 設計製図 I	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6 工作実習 I	***	1M	講義	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

（出典 授業点検書集計結果）

## 資料4-3-7 平成27年度授業アンケートの集計結果（【担当教員からの講評】抜粋）

## 担当教員からの講評

- ・結果より概ね良好と考える。今後もこの授業がより良くなるよう努力したい。
- ・よい評価をいただきました。ただ、全般的にレポートの仕上がりは、例年より悪かったと思います。概ね良好かと存じます。
- ・特に問題がないようですので、来年度も同様の方法で講義を行っていきます。
- ・前半は難しい内容だったと思いますが、電気電子系の学生もがんばっていたと思います。授業がやりやすかったです。
- ・当初の受講希望者は8名であったが、最後まで受講したのは6名である。定期試験を実施せず、授業を行って直ちに演習を実施した。演習の実施回数は12回である。受講生6名は最後まで、良く取り組んでいた。
- ・今年度、授業で使用するスライドをすべて英語で書き換えました。それに対するコメントがなかったのは残念ですが、どの項目もまずまずの評価となりました。
- ・プログラミング課題の提案がありましたが、シラバスの自己学習のところで2つのプログラムの作成が必要としています。次年度以降は自己学習について詳しく説明します。
- ・概ね良い評価が得られたと思います。機械、電気の学生さんにとってはあまり馴染みのない分野で、課題も難しく感じたと思いますが、しっかり取り組んでくれたと思います。
- ・研究テーマに関して不満（問題）があるようです。教員側にも改善の余地はあると思いますが、教員が決めたテーマであっても、そのテーマの背景や問題点を調べて解決方法を模索することが、研究に求められることであると思います。また、与えられたテーマの中で、自分の興味を見出すことも必要であると思います。

(出典 授業アンケート集計結果)

## 資料4-3-8 平成27年度授業アンケート集計結果（【授業の改善すべき点】抜粋）

## 授業の改善すべき点（項目のみ）

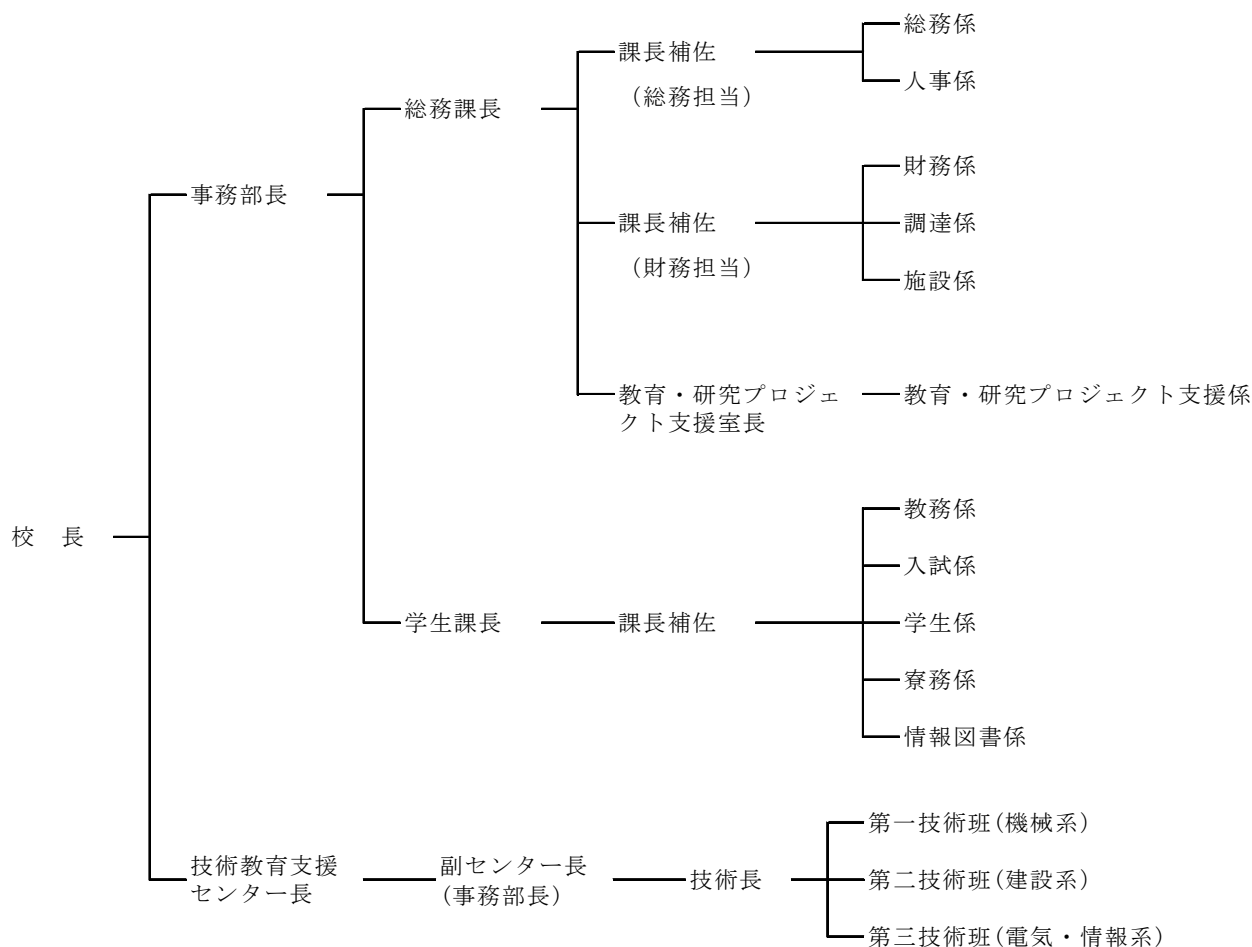
1. 説明の仕方
2. 授業の進め方・工夫
3. 黒板の使い方
4. 教材等
5. 課題等
6. 試験・評価
7. その他

(出典 授業アンケート集計結果)

### 3.2 教育支援者等の資質向上

本校の事務職員及び技術職員の関係組織図を図4-3-4に示す。事務職員組織は事務部長以下2課体制となっており、組織及び所掌事務については事務組織規程（資料4-3-9）、課長補佐及び各係の名称や事務分掌については事務分掌規程（資料4-3-10）に定められている。また、技術職員組織は技術教育支援センター長（教員）以下、副センター長、技術長、3技術班から構成されており、その業務については技術教育支援センター規則（資料4-3-11）に定められている。

図4-3-4 事務職員及び技術職員の関係組織図



## 資料4-3-9

## 事務組織規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規程は、明石工業高等専門学校事務組織及びその所掌事務について定める。

（事務部の組織）

第2条 事務部に総務課及び学生課を置く。

（総務課の事務）

第3条 総務課においては、次の事務をつかさどる。

- （1）学校の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
- （2）儀式・会議、その他諸行事に関すること。
- （3）学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること
- （4）内地研究員、在外研究員、教育研究集会等に関すること。
- （5）科学研究費及び研究助成等に関すること。
- （6）学術団体等との連絡に関すること。
- （7）自己点検・評価、外部評価及び認証評価に関すること。
- （8）広報及び情報公開に関すること。
- （9）渉外に関すること。
- （10）法人文書類の收受、発送、編集及び保管に関すること。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

## 資料4-3-10

## 事務分掌規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 事務組織規程第5条第3項及び第7条第2項の規定に基づく課長補佐並びに各係の名称及び事務分掌については、この規程の定めるところによる。

（総務課）

第2条 総務課に課長補佐（総務担当）、課長補佐（財務担当）、課長補佐（教育・研究プロジェクト支援室長）及び次の6係を置く。

総務係

人事係

財務係

調達係

施設係

教育・研究プロジェクト支援係

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

## 資料4-3-11

## 技術教育支援センター規則（抜粋）

## （設置）

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育・研究に関する技術的支援と専門的業務を円滑かつ効率的に行うため、技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

## （組織）

第2条 センターに、センター長、副センター長、技術長、技術専門職員及び技術職員を置く。

2 センターに、技術専門員を置くことができる。

3 前項に掲げる者のほか、特定事項の教育支援を行うため、専任教員を置くことができる。

4 センターに、第1技術班（機械系）、第2技術班（建設系）、第3技術班（電気・情報系）を置く。

## （業務）

第3条 センターは、本校の教育・研究の支援及び技術に関する次の業務を行う。

(1) 学生の実験実習、演習及び卒業研究に関する技術指導

(2) 全校を対象とした技術に関する業務

(3) 共同研究等における技術相談、技術協力及び技術指導に関すること

(4) センターの管理・運営に関すること

(5) その他、センター長が必要と認めたもの

2 前条第3項に定める各技術班においては、当該各分野に関する専門技術業務及び技術開発並びに学生の技術指導を行う。

（出典 明石工業高等専門学校規則集）

職員の資質向上のため、学内及び学外で種々の研修会が開催されている。学内で開催される教職員対象の研修については、総務課人事係が全教職員に対して周知している（資料4-3-12）。開催状況は表4-3-2に示すとおりである。学外で開催される研修については毎年度当初に参加計画を策定し、適切な研修会に適正な人員が参加している。参加状況を表4-3-3に示す。

資料4-3-12

Subject: 【通知】SD研修会の開催について

Date: Tue, 2 Feb 2016 08:42:42 +0900

From: 総務課人事係 <jinji.jim@akashi.ac.jp>

To: anct-o.stf@akashi.ac.jp

平成28年2月2日

職員各位

事務部長

SD研修会の開催について

このたび、職員の資質向上のため、下記のとおりSD研修会を開催いたしますので、お知らせいたします。

※SD（スタッフ・ディベロップメント）とは、事務職や技術職などの職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。

記

1. 日時 平成28年2月16日（火）13:00～15:00
2. 場所 合併教室
3. 対象 事務職員及び技術職員
4. 目的 職員の意識を高め、仕事へのモチベーションを高めるとともに、職員間のコミュニケーションを図る機会とする
5. 内容 コミュニケーション講座
6. 講師 NPO法人シミンズシーズ 柏木輝恵 氏 （出典：学内メール）

表4-3-3 事務職員・技術職員の研修実績

研修会等名称	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		主催等
	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	
近畿地区国立高専技術職員研修			2	0			4	0			近畿地区国立高専
近畿地区国立高専技術職員懇談会	2	0			9	1			2	0	近畿地区国立高専
西日本地域高専技術職員特別研修会			1	0	1	0			1	0	国立高専機構
新任課長研修							0	1	0	1	国立高専機構
新任課長補佐研修会	0	2			0	1	0	1	0	2	国立高専機構
新任係長研修会	0	2	0	2			0	2	0	2	国立高専機構
初任職員研修会	0	3	1	1	1	2	1	2	0	3	国立高専機構
学務関係職員研修会	0	1	0	1	0	1	0	1			国立高専機構
労務管理研修					0	1	0	3	0	1	国立高専機構
会計入門研修					0	1			1	2	国立高専機構
独法簿記研修	0	1	0	1			0	2	0	2	国立高専機構
監査研修会		1		1		2		4	0	3	国立高専機構
施設担当職員研修会			1	0	1	0			1	0	国立高専機構
情報担当者研修会			0	1	0	1					国立高専機構
IT人材育成研修会									1	0	国立高専機構
近畿地区研究・知的財産契約業務研修									0	2	国立高専機構
三機関連携豊橋技術科学大学ペナンス校SD海外研修							0	1			国立高専機構
近畿地区中堅係員研修	0	1	0	1			1	0	1	1	人事院近畿事務局
近畿地区課長補佐研修			0	1							人事院近畿事務局
近畿地区課長研修							0	1			人事院近畿事務局
兵庫県下教育機関事務系職員（新規採用者）研修	0	3	1	1	1	2	1	1	0	1	兵庫県下国立学校（担当神戸大学）
アプリケーションソフト研修			0	5			0	2			神戸大学
近畿地区学生指導研修会			0	1			0	1	0	1	東海・北陸・近畿地区学生指導研究会
近畿地区国立大学法人等会計事務研修					0	1	0	1			国立大学協会近畿地区支部
国立大学法人等施設担当職員研修会					1	0	1	0			国立大学
情報システム統一研修			0	2	0	1	1	1	1	0	総務省
英会話研修			1	2	2	1	2	1	1	1	明石高専
SD研修							11	13	11	11	明石高専



#### 4. 優れた点及び改善を要する点

##### (優れた点)

- ・卒業時及び専攻科修了時における学生の学習・教育目標の達成度評価システムが確立している。
- ・各授業に対する学生や他の教員による授業評価システムが確立しており、その結果を教員にフィードバックし、授業改善を行っている。
- ・準学士課程及び専攻科課程において、研究成果の学会等への発表が積極的に行われており、学会等から表彰を受けた学生が多い。
- ・専攻科修了生、進路先企業及び大学院から、修了生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見をアンケートにより聴取して、改善策を講じてそれを実行している。
- ・FD委員会、教務委員会、専攻科・JABEE委員会を中心として教育活動の実態を示すデータや資料を収集・蓄積し、その評価結果を教育改善に繋げる体制を整備している。それらの活動と有識者懇談会の提言から、国際交流センターをグローバルエデュケーションセンターに改組し、アクティブラーニングセンターを設置した。
- ・毎年授業公開の期間を設け、全授業を教員、保護者、中学校教員に公開するとともに、研究授業を設定し各科で授業改善のための取組を実施している。
- ・授業アンケートの結果を、学内LANを通して全教職員及び学生に公表している。

##### (改善を要する点)

- ・学習・教育目標のうち、「国際性と指導力」について専攻科修了生の達成度が不十分であるとの意見が、企業、大学院でそれぞれ36%、18%あった。その結果を踏まえて、国際性については平成27年度、学科1年生に科目「グローバルスタディーズⅠ」を新設し、英語を自主的に学べる場所「グローバルエデュケーションオフィス（通称：グローバルテラス）」を設置するなどした。一方、指導力については学科・学年を横断してPBLとアクティブラーニングを実践する科目を平成28年度に導入する。それらの効果を客観的に公正に見極め、次のアクションを考えることが必要である。